第17回全国中学校選抜大会

男女とも九州勢が制す

松橋（熊本）、明野（大分）が初優勝

第17回全国中学校選抜大会は、8月21日から24日までの4日間、福島市に全国9ブロックから勝ち抜いた男女各16校が集まって熱戦をくり広げた。

男子は、松橋（熊本）と浦添（沖縄）という九州勢同士の決勝対決となった。浦添は、準決勝で小部（兵庫）との対戦で大苦戦、延長戦で破っての準出である。この試合、浦添のエース・名嘉君が前半の15分頃、シュートを打った際に脳震とうを起こし、タンカで退場してしまうというハプニング。これで浦添は終始劣勢にまわったのだが、よく粘って16—16の同点で延長戦に持ち込んだ。ところが、ここへ病院での治療を終えた名嘉君が戻ってきた。この復帰に力を得た浦添が延長で小部を25—20と突き放しての劇的な勝利であった。

一方の松橋は、九州大会に優勝、パワー、スピードに優れた好チームで、今大会も好調に勝ち進んで決勝まできた。

決勝は、準決勝での勢いをもった浦添が前半から好調に加点、前半の終盤に少し追い上げられたものの11—9と2点をリードして折り返す。このあたり九州大会で20—12と浦添を破っている松橋もタジタジ。しかし、後半の立ち上がり松橋は守っての逆速攻で得点、一気に調子を上げて14—13と逆転。浦添も反撃して再逆転、と激しい点の取り合いとなる。だが、次第に松橋のスピードが勝り始め、じりじりと得点差を広げ、残り5分には20—16。浦添に少し疲れが見え、ほぼ勝負は決した。結局23—19で松橋が初優勝を飾った。

女子は、明野（大分）と西中原（神奈川）の決勝戦。両校とも小学生からハンドボールを経験している選手がほとんどということで多彩なプレーを展開する。立ち上がり明野が先制。西中原は5分まで無得点。しかし、中盤から懸命に追い上げ、15分には7—6と明野の1点リードとなる。ところが、ここで西中原は息切れ、明野が4点を連取して10—6で前半を終える。

後半に入ると、再び西中原が反撃、10—11、11—12と1点差まで詰めるがなかなかあと1点がとれない。逆に中盤、明野の甲斐に連続して得点を許し、再び突き放されてしまった。結局18—13で明野が初優勝を飾り、男女とも九州勢が制した。



男子

松橋（熊本）が初優勝

1回戦

東陵（愛知） 21 （11−8、10−7） 15 板津（石川）

得	〔東陵〕		〔板津〕	得
0	松久保	GK	五谷	0
0	神谷		江指	0
7	中村	FP	中田	2
3	石浜		井上	6
2	岩木		吉田	0
2	相木		池上	0
0	出原		猪坂	3
1	後藤		大壁	2
6	掛川		北川	0
0	園原		堂道	1
0	井上		久司	0
0	宇津野		中村	1
0	水野		沢田	0
0	古庄		灰田	0
0	志賀		山岸	0
21	(1)	PT	(2)	15

（審・大河原 池田）

松橋（熊本） 26 （13−10、13−7） 17 朝霞五（埼玉）

得	〔松橋〕		〔朝霞五〕	得
0	米村	GK	野島	0
0	鶴崎		桜田	0
2	大野	FP	根上	0
4	氏原		清水	0
7	岩崎直		大野	0
4	村上		竹ノ内	0
0	増田		羽白	3
0	古賀		渡辺	1
0	平井		横村	0
0	山口		高橋	2
0	森山		田中	0
3	岩崎雅		丸山	2
5	米満		工藤	5
1	岩永		寺嶋	0
0	斉藤		大邑	4
26	(0)	PT	(1)	17

（審・小沼 田川）

香川一（香川） 20 （12−4、8−7） 11 内郷一（福島）

得	〔香川一〕		〔内郷一〕	得
0	相馬	GK	青柳	0
0	大谷		相楽	0
0	平田	FP	福地	2
0	増本		荒	6
1	山田		佐藤	2
2	大山		鈴木	0
1	藤沢		太田	1
5	川田		富安	0
0	明石		田部	0
8	真鍋		大和	0
0	川野		馬上	0
0	土居		矢沢	0
0	藤本		影山	0
3	山本		笹本	0
0	中川		菅野	0
20	(4)	PT	(1)	11

（審・川島 森）

大体大附（大阪） 21 （12−12、9−6） 18 深浦（山口）

得	〔大体大附〕		〔深浦〕	得
0	前山	GK	竹尾	0
0	下村		山本	0
8	沖田	FP	宮本	1
6	安田		辻	5
4	山本		広政	9
3	庄礼		末石	1
0	永田		保科	0
0	土井		守田	2
0	西野		岩本	0
0	谷口		浅本	0
21	(2)	PT	(1)	18

（審・北村 福島）

1回戦

国立一（東京） 23 （11−5、12−4） 9 操山（岡山）

得	〔国立一〕		〔操南〕	得
0	松山	GK	小山	0
0	手塚		大道	0
4	田辺	FP	石原	2
2	関沢		牧	1
5	鈴木		道上	2
3	宮崎		富士松	2
0	石田		八田	1
4	松沢		山本	0
2	武藤		松浦	0
1	安藤		山口	0
1	熊崎		藤原	1
1	是枝		藤本	0
0	藤沢		西口	0
0	小松		森山	0
0	伊藤			
23	(2)	PT	(1)	9

（審・藤原 高山）

小部（兵庫） 22 （10−7、12−7） 14 笹川（三重）

得	〔小部〕		〔笹川〕	得
0	小河	GK	吉川	0
0	安立		豊福	0
11	田中	FP	吉原	0
6	高木		坂下千	5
1	北村		森壮	4
2	森田		上村	1
0	岩出		井上	0
2	原田		坂下泰	2
0	左海		森泰	0
0	近藤		宍戸	0
0	前波		榊	2
0	松本		高橋	0
0	石田		沢山	0
0	筧		古川	0
0	因幡			
22	(2)	PT	(2)	14

（審・岡村 長井）

信夫（福島） 18 （8−5、10−2） 7 湯川（北海道）

得	〔信夫〕		〔湯川〕	得
0	野地	GK	藤巻	0
0	高木		納谷	0
6	小幡	FP	谷口	4
2	和知		篠田	1
3	浅尾		鳥谷部	0
1	加藤		吉田真	1
2	阿部		中浜	1
0	渡辺晃		吉田伸	0
0	高橋		山田	0
0	丹治雅		和泉	0
4	本郷		谷口	0
0	清水		佐藤	0
0	赤井			
0	丹治公			
0	渡辺聡			
18	(3)	PT	(0)	7

（審・大河原 池田）

浦添（沖縄） 23 （12−6、11−6） 12 氷見南部（富山）

得	〔浦添〕		〔南部〕	得
0	渡久山	GK	園	0
0	宜保		山下	0
6	名嘉	FP	垣地	1
6	宮里		太田	1
3	棚原厚		上野	0
0	津嘉山		中島	2
1	仲地		柿谷	1
0	前花		久保	2
0	平良		越水	0
2	当銘		黒崎	0
0	棚原淳		曽場	0
0	外間		堀江	0
0	上原		滝根	5
0	福治		荒勢	0
0	浦崎		廣谷	0
23	(2)	PT	(0)	12

（審・川島 森）

2回戦

松橋 18（9－7 / 9－8）**15 東陵**

得	〔松橋〕		〔東陵〕	得
0	米村	GK	松久保	0
0	鶴崎	GK	神谷	0
0	大野	FP	中村	5
3	氏原	FP	石浜	1
2	岩崎	FP	岩木	0
6	村上	FP	相木	1
0	増田	FP	出原	0
0	古賀	FP	後藤	1
0	平井	FP	掛川	4
0	山口	FP	園原	0
2	森山	FP	井上	0
0	岩崎	FP	宇津野	3
5	米満	FP	水野	0
0	岩永	FP	古庄	0
0	斉藤	FP	志賀	0
18	(0)	PT	(0)	15

（審・池田 大河原）

大体大附 21（13－6 / 8－8）**14 香川一**

得	〔大体大附〕		〔香川一〕	得
0	前田	GK	相馬	0
0	下村	GK	大谷	0
9	沖田	FP	平田	0
9	安田	FP	増本	0
1	山本	FP	山田	3
0	庄礼	FP	大山	2
0	永田	FP	藤沢	2
0	宍戸	FP	川田	2
2	土井	FP	明石	0
0	西野	FP	真鍋	5
0	谷口	FP	川野	0
0	井上	FP	土居	0
		FP	藤本	0
		FP	山本	0
		FP	中川	0
21	(0)	PT	(3)	14

（審・長井 岡村）

準決勝

松橋 24（12－8 / 12－7）**15 大体大附**

得	〔松橋〕		〔大体大附〕	得
0	米村	GK	前田	0
0	鶴崎	GK	下村	0
0	大野	FP	沖田	7
1	氏原	FP	安田	2
4	岩崎	FP	山本	4
7	村上	FP	庄礼	1
0	増田	FP	永田	0
0	古賀	FP	宍戸	0
0	平井	FP	土井	1
1	山口	FP	西野	0
3	森山	FP	谷口	0
6	岩崎	FP	井上	0
1	米満	FP		
0	岩永	FP		
1	斉藤	FP		
24	(0)	PT	(0)	15

（審・藤原 高山）

浦添 25（5－2 / 4－2 / 10－9 / 6－7）**20 小部**

得	〔浦添〕		〔小部〕	得
0	渡久山	GK	小河	0
0	宜保	GK	安立	0
2	名嘉	FP	田中	6
7	宮里	FP	高木	5
4	棚原厚	FP	北村	8
0	津嘉山	FP	森田	1
4	仲地	FP	岩出	0
1	前花	FP	原田	0
0	平良	FP	左海	0
1	当銘	FP	近藤	0
2	棚原淳	FP	前波	0
4	外間	FP	松本	0
0	上原	FP	石田	0
0	福治	FP	筧	0
0	浦崎	FP	因幡	0
25	(0)	PT	(3)	20

（審・川島 森）

2回戦

小部 20（13－5 / 7－5）**10 国立一**

得	〔小部〕		〔国立一〕	得
0	小河	GK	松山	0
0	安立	GK	手塚	0
10	田中	FP	田辺	2
4	高木	FP	関沢	2
0	北村	FP	鈴木	1
1	森田	FP	宮崎	1
1	岩出	FP	石田	0
4	原田	FP	松沢	4
0	左海	FP	武藤	0
0	近藤	FP	安藤	0
0	前波	FP	熊崎	0
0	松本	FP	是枝	0
0	石田	FP	藤沢	0
0	筧	FP	小松	0
0	因幡	FP	伊藤	0
20	(1)	PT	(1)	10

（審・小沼 田川）

浦添 23（11－10 / 12－4）**14 信夫**

得	〔浦添〕		〔信天〕	得
0	渡久山	GK	野地	0
0	宜保	GK	高木	0
0	名嘉	FP	小幡	7
11	宮里	FP	和知	4
1	棚原厚	FP	浅尾	1
3	津嘉山	FP	加藤	0
0	仲地	FP	阿部	0
1	前花	FP	渡辺晃	0
0	平良	FP	高橋	0
0	当銘	FP	丹治雅	0
0	棚原淳	FP	本郷	2
4	外間	FP	清水	0
3	上原	FP	赤井	0
0	福治	FP	丹治公	0
0	浦崎	FP	渡辺聡	0
23	(2)	PT	(1)	14

（審・北村 田村）

決勝

松橋 23（14－8 / 9－11）**19 浦添**

得	〔松橋〕		〔浦添〕	得
0	米村	GK	渡久山	0
0	鶴崎	GK	宜保	0
0	大野	FP	名嘉	8
4	氏原	FP	宮里	5
1	岩崎	FP	棚原厚	1
10	村上	FP	津嘉山	0
0	増田	FP	仲地	0
0	古賀	FP	前花	0
0	平井	FP	平良	0
0	山口	FP	当銘	0
5	森山	FP	棚原淳	4
1	岩崎	FP	外間	1
2	米満	FP	上原	0
0	岩永	FP	福治	0
0	斉藤	FP	浦崎	0
23	(1)	PT	(1)	19

（審・川島 森）





女子 明野（大分）が初優勝

1回戦

富山（岡山）10（3－1、7－4）**5 西笹川（三重）**

得	〔富山〕		〔西笹川〕	得
0	渡会	GK	内田	0
0	本徳		栗栖	0
0	田渕	FP	岡	0
0	西岡		前川	1
7	荒川		石原	0
0	今井		柳園	1
0	村上		多川	2
3	吉川		野田	1
0	岡		安田	0
0	入江		加藤美	0
0	小林		野呂	0
0	井本		嵯峨崎	0
0	平川		加藤愛	0
0	山口		古市	0
10	(3)	PT	(1)	5

（審・伊藤、中島）

小杉（富山）20（9－7、11－10）**17 都呂々（熊本）**

得	〔小杉〕		〔都呂々〕	得
0	鏡森	GK	木村	0
0	広瀬		光田	0
7	川腰	FP	松本	0
2	前花		平田	0
4	宮城		平手	4
3	大門		森下佳	0
0	竹内		森下慶	8
3	島田		松下	0
0	砂原		松村	4
0	定塚		木村	0
0	横堀		酒井	1
1	新村		末金良	0
0	辰口		末金恵	0
0	池原		野口	0
0	今泉		平田	0
20	(1)	PT	(0)	17

（審・石川、小笠原）

二瀬（福島）21（8－2、13－3）**5 青葉（北海道）**

得	〔二瀬〕		〔青葉〕	得
0	大和田	GK	松平	0
0	田母神		堂仏	0
7	横田力	FP	佳田	0
3	横田由		池本	0
3	菊地		尾形	1
7	須藤		植野	1
1	岡部		入生	1
0	安藤		佐藤	0
0	上野		渡辺	0
0	石井		斉藤	0
0	佐久間		新井田	0
0	梢		森	0
0	遠藤		石川	2
0	先崎			
21	(1)	PT	(0)	5

（審・佐々木、佐藤）

西中原（神奈川）26（11－9、15－9）**18 上町（大阪）**

得	〔西中原〕		〔上町〕	得
0	北條	GK	末鷹	0
0	池端		新垣	0
6	小森	FP	岡田	7
4	武田		中村	6
5	吉崎		中山	1
0	若林		藤原	2
0	志村		森	1
2	佐藤		中田	1
9	川原		太田	0
0	廣		秋村	0
0	市村		安井	0
0	白井佳		康	0
0	白井順		安部	0
0	広山		飼手	0
0	新井		藤村	0
26	(5)	PT	(1)	18

（審・工藤、藤本）

1回戦

明野（大分）17（6－6、11－6）**12 玖珂（山口）**

得	〔明野〕		〔玖珂〕	得
0	遠竹	GK	坂井	0
0	前川		河本	0
3	実川	FP	唐本	1
5	甲斐		白地	2
2	古宅		杉岡	3
0	児玉		木村	0
0	清水		末森	3
0	森山		佃	0
0	三浦		松本	0
0	酒田		中村	3
0	木原		西岡	0
4	吉永		河本	0
0	長田		田中亜	0
3	松本		菱沼	0
0	足立		田中賀	0
17	(0)	PT	(0)	12

（審・晃川、佐藤）

牧の池（愛知）16（9－4、7－11）**15 岩井南（茨城）**

得	〔牧ノ池〕		〔南〕	得
0	山奥	GK	栗原	0
			柿本	0
8	前原	FP	高橋	8
2	戸谷		関	1
1	岩崎		金田	0
1	小林		長妻	4
3	加藤		倉持友	2
0	久保		倉持雅	0
1	鈴木		間中美	0
			間中多	0
			永井	0
			張谷	0
			山崎	0
			岡本	0
			野口	0
16	(1)	PT	(2)	15

（審・中島、伊藤）

山田（香川）24（11－7、13－11）**18 中田（宮城）**

得	〔山田〕		〔中田〕	得
1	多田	GK	今内	0
0	三好		柿沼	0
8	橋谷	FP	菅原ま	2
3	宮本純		小野寺	3
1	土井		石垣	5
2	十河		桧野	4
2	熊野		沼倉	3
1	赤松		太田	0
0	宮本貴		佐藤真	0
1	久保優		佐藤浩	0
0	橋本		相沢	0
0	平井		岩間	1
5	松本		相沢	0
0	植田		豊田	0
0	久保月		菅原千	0
24	(3)	PT	(1)	18

（審・丸井、関本）

大瀬（奈良）16（5－5、11－5）**10 御幸（石川）**

得	〔大瀬〕		〔御幸〕	得
0	中井	GK	小前田	0
0	中沢		中沢	0
9	稲次	FP	宮崎	7
2	平井		宮本	1
0	井口		永江	1
1	小野		大野	1
0	辻		北崎	0
4	中里		杉山	0
0	中尾喜		水野	0
0	吉川		二木	0
0	中嶋		坂下	0
0	小山		升井	0
0	中尾恭		林	0
0	河野		吉田	0
0	中川		辻	0
16	(1)	PT	(0)	10

（審・石川、小笠原）

2回戦

富山 18（10−10、8−7）17 小杉

得	〔富山〕		〔小杉〕	得
0	渡会	GK	鏡森	0
0	本徳		広瀬	0
0	田渕	FP	川腰	1
0	西岡		前花	5
13	荒川		宮城	3
0	今井		大門	0
3	村上		竹内	0
1	吉川		島田	6
0	岡		砂原	0
0	入江		定塚	0
0	小林		横堀	0
0	井本		新村	2
1	平川		辰口	0
0	山口		池原	0
18	(3)	PT	(4)	17

（審・中島・伊藤）

西中原 26（15−4、11−10）14 二瀬

得	〔西中原〕		〔二瀬〕	得
0	北條	GK	大和田	0
0	池端		田母神	0
5	小森	FP	横田力	5
2	武田		横田由	0
0	吉崎		菊地	4
1	若林		須藤	4
3	志村		岡部	1
0	佐藤		安藤	0
4	川原		上野	0
0	廣		石井	0
4	市村		佐久間	0
3	白井佳		梢	0
1	白井順		遠藤	0
0	広山		先崎	0
3	新井		大河内	0
26	(0)	PT	(2)	14

（審・工藤・藤本）

準決勝

西中原 21（10−10、11−6）16 富山

得	〔西中〕		〔富山〕	得
0	北條	GK	渡会	0
0	池端		本徳	0
7	小森	FP	田渕	0
2	武田		西岡	0
6	吉崎		荒川	6
0	若林		今井	0
0	志村		村上	3
2	佐藤		吉川	3
4	川原		岡	3
0	廣		入江	0
0	市村		小林	1
0	白井佳		井本	0
0	白井順		平川	0
0	広山		山口	0
0	新井			
21	(4)	PT	(0)	16

（審・石川・小笠原）

明野 16（6−6、10−5）11 大瀬

得	〔明野〕		〔大瀬〕	得
0	遠竹	GK	中井	0
0	前川		中沢	0
1	実川	FP	稲次	4
7	甲斐		平井	0
0	古宅		井口	2
1	児玉		小野	1
0	清水		辻	0
0	森山		中里	4
0	三浦		中尾喜	0
0	酒田		吉川	0
0	木原		中嶋	0
1	吉永		小山	0
0	長田		中尾恭	0
6	松本		河野	0
0	足立		中川	0
17	(1)	PT	(2)	11

（審・中島・伊藤）

2回戦

明野 12（5−1、7−7）8 牧の池

得	〔明野〕		〔牧ノ池〕	得
0	遠竹	GK	山奥	0
0	前川			
0	実川	FP	前原	0
5	甲斐		戸谷	1
0	古宅		岩崎	0
2	児玉		小林	4
0	清水		加藤	3
0	森山		久保	0
0	三浦		鈴木	0
0	酒田			
0	木原			
0	吉永			
0	長田			
5	松本			
0	足立			
12	(0)	PT	(2)	8

（審・佐東・見川）

大瀬 21（14−6、7−9）15 山田

得	〔大瀬〕		〔山田〕	得
0	中井	GK	多田	0
0	中沢		三好	0
4	稲次	FP	橋谷	7
1	平井		宮本純	0
1	井口		土井	0
2	小野		十河	3
0	辻		熊野	2
7	中里		赤松	2
1	中尾喜		宮本貴	0
5	吉川		久保優	0
0	中嶋		橋本	0
0	小山		平井	0
0	中尾恭		松本	1
0	河野		植田	0
0	中川		久保月	0
21	(0)	PT	(2)	15

（審・丸井・関本）

決勝

明野 18（10−6、8−7）13 西中原

得	〔明野〕		〔西中原〕	得
0	遠竹	GK	北條	0
0	前川		池端	0
1	実川	FP	小森	3
8	甲斐		武田	2
1	古宅		吉崎	2
0	児玉		若林	0
0	清水		志村	3
0	森山		佐藤	1
0	三浦		川原	2
0	酒田		廣	0
0	木原		市村	0
2	吉永		白井佳	0
6	長田		白井順	0
0	松本		広山	0
0	足立		新井	0
18	(1)	PT	(2)	13

（審・中島・伊藤）



第31回全日本教職員選手権大会

（男子）埼玉教員が18年ぶり3度目の優勝
（女子）京都教員が二連覇

第31回全日本教職員選手権大会は、8月9日から13日まで、男子42チーム、女子11チームが参加して北海道札幌市で開催された。

男子は、埼玉教員が決勝で長野教員を下し、実に18年ぶり3度目の優勝を飾った。女子は昨年につづき京都教員と愛知教員の決勝対決となったが、京都教員が二連覇を遂げた。

男子

1回戦

茨苑ク（茨城）38（19－10、19－6）16 三重教員（三重）

〔戦評〕試合開始から茨苑クによる一方的な試合展開となった。茨苑クは、攻守、走りともに三重教員を上回っており、固いガードからの速攻が次々と決まった。後半は、茨苑クもペースが落ちたが、徐々に点差を開いた。両チームとも足がついてゆかず後ろからのホールディングが増え、退場者が多くなった。前半は身体接触が少なかっただけに残念であった。（碓井）

〔三重〕		得
GK	神谷	0
FP	細川	2
	仲井	2
	三谷	5
	片山	4
	丸山	2
	近藤	1
	計	16
	PT	(0)

（審・菅野・半田）

〔茨苑ク〕		得
GK	雨谷	0
FP	今井	2
	藤井	4
	福田	5
	高野	6
	浜野	5
	黒石	2
	松信	9
	北村	4
	久保田	1
	計	38
	PT	(6)

スワロー兵庫（兵庫）48（24－8、24－8）16 三河教員（愛知）

〔戦評〕開始早々より、兵庫の速攻が次々決まり10点連取、三河は兵庫の堅いディフェンスを崩せず苦戦、苦しまぎれのシュートを兵庫GK・近藤につながれ、前半は24－8の大差で終了。後半に入っても兵庫のスピードは落ちず着々と加点。一方、三河は疲れも手伝いミスが多く、時折見せるナイスプレーも単発で終ってしまった。（清水）

〔三河〕		得
GK	石川	0
FP	木和田	2
	宇野	1
	高木	3
	鈴木	4
	荻野	4
	河合	2
	計	16
	PT	(2)

（審・志々場・庄司）

〔スワロー〕		得
GK	近藤	0
	狩野	0
FP	浜田	2
	大西	3
	船脇	6
	竹内	7
	岡辺	4
	今井	8
	寺口	6
	堀尾	6
	森本	2
	松本	4
	計	48
	PT	(5)

北海道教員（北海道）25（13－8、12－11）19 新潟教員（新潟）

〔戦評〕立ち上がり、新潟の2点連取でそのままペースをつかむかと思われたが、北海道もよく走り得点に結びつけた。ポストプレーと速攻を得意とした北海道チームに新潟は押し切られてしまった感じがする。新潟のGKの好守が光ったゲームでもあった。両チームともに最後までよくがんばった。（半田）

〔新潟〕		得
GK	水内	0
FP	加藤	0
	春日	0
	頓所	3
	斉藤	4
	阿部	6
	長谷川	5
	本間	1
	計	19
	PT	(2)

（審・上久保・北井）

〔北海道〕		得
GK	松沢	0
	柿沼	0
FP	佐藤	3
	加藤	1
	田村	2
	米内山	5
	中村	0
	高田	1
	三浦	3
	川村	2
	伊藤	5
	小野寺	3
	計	25
	PT	(0)

福井教員（福井）29（10－9、12－13、3－1、4－3）26 神奈川B（神奈川）

〔戦評〕双方ともボールが手につかなかった。神奈川教B・堀越の、サイドシュートで先取するが、ミス、カットからの速攻で福井が主導権をつかみ、一時は3点差まで広げるが、神奈川もジリジリ追い上げ前半1点差で終る。

後半に入っても一進一退、神奈川・山田の活躍もあり、タイムアップ寸前に斉田がペナルティーを決め延長戦に入った。延長では、ミドル、変則シュートと個人技の差が出て、福井が初戦を飾った。（林）

〔神奈川B〕		得
GK	千葉	0
	座間	0
FP	本田	3
	山田	9
	嶋崎	1
	福田	0
	斉田	8
	堀越	5
	高橋	0
	計	26
	PT	(1)

（審・大河原・小林）

〔福井〕		得
GK	柴田	0
FP	半田	4
	加納	1
	小林	0
	中屋	12
	五十嵐	3
	細川	2
	川上	1
	竹野	6
	計	29
	PT	(3)

岐阜教員（岐阜） 27 (14—14, 13—6) 20 白亜ク（岩手）

〔戦評〕岩手白亜クが先取点をあげたが、10分過ぎから岐阜が加藤の活躍で着々と加点、次第に点差を広げ、13—6と大差をつけて前半を折り返す。後半に入っても岐阜のペースがつづいたが、中盤から白亜もよく走って反撃、互角の展開を見せたが、前半の差が大きかった。（田中）

	〔白亜ク〕	得	〔岐阜〕	得
GK	佐藤	0	野田	0
FP	早坂	0	田中	0
	岡市	5	名倉	0
	菊地	3	近藤	0
	阿部	4	飯島	1
	早坂	1	加藤	9
	鈴木	5	鈴木	0
	柏館	2	上野	2
			西尾	0
			高橋	7
			奥村	2
			林	6
PT		(2) 20		27 (0)

（審・横瀬、矢沢）

熊本教員（熊本） 31 (15—14, 16—10) 24 石川教職員（石川）

〔戦評〕前半は両チームともかなりのシュートの打ち合いとなったが、ディフェンスが固く、また、走りにおいても全員が走る熊本教員が一歩リードした。石川教員もかなりシュートを打つが単調なためディフェンスに読まれ、GKに阻まれた。後半に入ってからも、石川の単調なシュートを速攻に結びつけ着実に加点した。（小林）

	〔石川〕	得	〔熊本〕	得
GK	小幡	0	中野	0
FP	真田	8	田中	3
	北中	0	財満	6
	中田	3	北島	5
	中田	0	古田	0
	古橋	0	野口	2
	中村	5	宮瀬	0
	八十山	1	四宮	6
	田村	1	川西	9
	満井	6		
	阿部羅	0		
PT		(0) 24		31 (4)

（審・林、田中）

愛知教員（愛知） 22 (8—7, 9—10, 3—1, 2—3) 21 神奈川教員A（神奈川）

〔戦評〕お互いにスピードのない手さぐりの状態が数多く見受けられた。前半6分間ノーゴールの展開はともに苦痛であったと思う。神奈川教員・吉岡が速攻で最初の得点を得る。このリズムがお互いにチームの得点意欲に結びつき、カットイン、ポスト、速攻などの攻防戦の向上へとセットされるようになった。粘り勝ちの愛知教員に軍配が上がった。（高野）

	〔神奈川A〕	得	〔愛知〕	得
GK	井上	0	本地	0
FP	里沢	7	下山	7
	鈴木	4	楓	0
	名田	3	中野	1
	市原	2	細井	4
	五反田	0	高須	4
	吉岡	4	徳永	5
	遠藤	0	早川	1
	小池	0		
	大竹	1		
PT		(3) 21		22 (3)

（審・田村、斉藤）

茨城コンドルズ（茨城） 28 (15—18, 13—8) 26 愛媛教員（愛媛）

〔戦評〕開始より一進一退の攻防が続けられたが、残り5分間でコンドルズの速攻と愛媛のシュートミスが重なり、コンドルズのリードで前半が終了した。後半立ち上がり、愛媛が相手の退場も重なり確実に加点、8分には16—16の同点に追いついたが、ここでコンドルズが頑張り2点差で逃げ切った。愛媛は後半の攻撃が前半にほしかった。（斉藤）

	〔愛媛〕	得	〔茨城〕	得
GK	竹内	0	稲見	0
FP	田中	4	阿部	6
	定岡	5	安田	0
	東福	5	鈴木	0
	川田	1	佐藤	4
	上野	5	横山	7
	山本	2	吉井	8
	関谷達	0	長谷川	3
	関谷光	4	神矢	0
PT		(1) 26		28 (4)

（審・中島、高野）

富山教職員（富山） 34 (17—13, 17—6) 19 福島教員（福島）

〔戦評〕富山は、GK藤森の好守から速攻を中心にミドル、サイドと多彩な攻撃で確実に得点を重ねる。一方、福島は攻め手を欠き、ミスが多く前半で11点の大差をつけられる。後半、大量リードで富山の攻撃が雑になったところを速攻で反撃するも前半の差が大きく富山の一方的ゲームであった。（森山）

	〔福島〕	得	〔富山〕	得
GK	菊田	0	須波	0
FP	斉藤	1	藤森	0
	佐藤	2	小嶋	3
	小沼	5	票山	5
	浜津	1	竹内	1
	田川	5	幸塚	2
	遠藤	2	東瀬	2
	最上	3	沢井	7
			中浦	8
			金原	2
			秀永	0
			越前	4
PT		(0) 19		34 (0)

（審・小友、谷藤）

静岡教員団（静岡） 32 (17—15, 15—17) 22 山形教員（山形）

〔戦評〕山形がポスト、ミドルなどで加点。静岡もミドル、ロングで追うが、山形17対15で折り返す。

後半3分で静岡17対17の同点に追いつき、その後、速攻、ミドルで連続得点し、勝敗を決めた。山形は前半の走りが後半に全く見られず、リズムをつかめずに終った。（谷藤）

	〔山形〕	得	〔静岡〕	得
GK	佐藤	0	能勢	0
FP	鎌田	4	鈴木	0
	安孫子平	0	畑中	0
	堀野	0	大石	3
	瀧浪	4	石川	4
	安孫子功	3	清水	7
	柏崎	6	菊地	5
	大楯	0	粟田	10
	鈴木	3	細沢	3
	星川	2		
PT		(2) 22		32 (0)

（審・田原、森山）

2回戦

沖縄教員（沖縄） 19 (11—8, 8—5) 13 茨苑クラブ

〔戦評〕沖縄2分に13番仲田がミドル、アンダーシュートで連取。リズムに乗りたいところであるが、

乗れず、個人技と茨苑のシュートミスを速攻に結びつけ前半8点。対する茨苑はセットでの決め手に欠け、単調な攻撃となり5得点で終る。
　後半、沖縄は茨苑のシュートミスを速攻で得点。セットでもミドル、サイド、ポストと多彩な攻撃で得点を重ねた。茨苑も必死で走り速攻、ポストプレーで追うが、追いつけなかった。（谷藤）

得	〔沖縄〕		〔茨苑ク〕	得
0	仲間	GK	雨谷	0
0	友寄	FP	今井	0
2	上原		藤井	0
1	仲里		福田	3
1	仲本	（審・森山、田原）	高野	3
1	屋嘉部		浜野	1
2	大城		黒石	2
2	宮元		松信	0
1	知念		北村	3
0	高良		久保田	1
6	仲田			
3	金城			
19	(2)	PT	(0)	13

長野教員（長野）34〔19―9／15―10〕19 千葉教員（千葉）

〔戦評〕千葉教員の仲田と大鐘のミドルだけの単調な攻撃に対し、長野教員は行田のミドル、サイド、塩、小山のポストと多彩な攻撃に相手のミスを速攻に結びつけ、前半5点リードで終了した。
　後半も同じペースで展開したが、中盤から長野教員は防御を固め、千葉教員の強引なシュートをGKの好守と相まって速攻を連発し、得点差を広げ快勝した。（小友）

得	〔長野〕		〔千葉〕	得
0	北島	GK	平松	0
3	塩川	FP	富田	0
11	矢島		仲村	2
5	行田		仲田	5
1	中条	（審・大河原、小林）	寺田	1
6	小山		大鐘	7
1	鳥谷		飯名	2
7	岩下		泉水	0
0	小口		加藤	1
			安井	0
			浅原	1
34	(0)	PT	(1)	19

大阪教員ク（大阪）27〔15―7／12―13〕20 宮城教員（宮城）

〔戦評〕速攻とサイドシュートを多用する大阪教員クラブと宮城教員の対戦。両チームとも身長も攻撃パターンもよく似たもの同士の対戦となった。一進一退の攻防が続く中で大阪教員が常に一歩リードしていたが、粘りの宮城教員は前半終了間際の、相手ミスからワン速攻し、1点リードで折り返す。
　後半立ち上がり大阪教員は早いパスワークからのポストシュートと速攻で逆転し、そのまま一進一退を前半同様くり返す。宮城教員もよく喰い下がり健闘したが、大阪の粘ばっこい攻めに徐々に点差を開かれ涙をのんだ。（矢澤）

得	〔大阪〕		〔宮城〕	得
0	伊藤	GK	春名	0
7	裕	FP	花渕	0
7	尾崎		三井	1
3	前出		佐藤	0
1	佐々木	（審・森山、田原）	菅原	7
0	浦		白石	1
4	高原		簡野	0
0	竹内		尾形	5
4	前田		石川	3
1	天野		千葉	0
			福島	3
			鈴木	0
27	(1)	PT	(1)	20

埼玉フェニックス（埼玉）30〔16―12／14―10〕22 スワロー兵庫

〔戦評〕前半両チームともよく走り一進一退の好ゲームを展開した。埼玉フェニックスは前半残り5分でスワロー兵庫のパスミスに乗じて3点連続得点し、14対10と4点差で前半を終了する。
　後半もよく走り一進一退の試合展開となる。両チームともディフェンスに荒さが目立った。兵庫も速攻、ポストシュートとよくついていったが、前半の差をつめきれず惜敗する。（横瀬）

得	〔フェニ〕		〔スワロー〕	得
0	阿部	GK	近藤	0
0	田中		狩野	0
5	山田	FP	浜田	2
1	山下		大西	1
1	山口	（審・小友、谷原）	船脇	0
1	松浦		竹内	4
5	土屋		岡辺	1
0	小林		今井	5
0	谷本		寺口	5
14	伊藤		堀尾	4
3	塚本		森本	0
0	渡辺		松本	0
30	(4)	PT	(2)	22

北海道教員37〔19―8／18―5〕13 和歌山クラブ（和歌山）

〔戦評〕前半立ち上がり3分まで両チームともリズムに乗れず無得点だったが、北海道がポストから先取し、和歌山もPTですぐ追いついたが、それから北海道は三浦のミドルを皮切りに、また相手のパスを読んでのカットからの速攻などで10分過ぎまで8連続得点。和歌山も中野のミドルなどで追い上げようとしたが、福田の退場もあり一方的な北海道の展開であった。
　後半も北海道は立ち上がり5連続得点をするなど差は開くばかりで、やや雑なゲーム運びであったが、危げなく楽勝した。（大河原）

得	〔北海道〕		〔和歌山ク〕	得
0	松沢	GK	横山	0
0	柿沼		芝山	0
4	佐藤	FP	中川	4
1	加藤		山本	3
5	大橋	（審・矢澤、横瀬）	中野	4
1	田村		福田	0
5	米内山		吉田	0
5	三浦		山東	0
3	近嵐		尾高	2
6	渡辺			
3	伊藤			
4	小野寺			
37	(4)	PT	(1)	13

滋賀教員（滋賀）22〔11―10／10―12〕21 東京教員（東京）

〔戦評〕両チーム共に速攻、遅攻で得点を重ね、一進一退のゲーム運びで東京教員が1点勝ち越して前半を折り返した。
　後半も同じような展開で、お互いよく守り、よく走り終了。1分前で同点となり、このまま延長戦となるかと思われたが、残り10妙で滋賀のスカイプレーが決まり、辛くも1点差で滋賀教員チームの勝利となる。東京教員もよくまとまったチームだけに惜しまれる。（田原）

得	〔滋賀〕		〔東京〕	得
0	松山	GK	川端	0
0	位田	FP	大東	3
5	伊藤		村崎	5
2	能波		古瀬	2
5	井上	（審・大河原、小林）	田代	3
4	武田		小川	2
6	大野		曽我	0
0	橋山		梅田	0
0	山根		比留間	6
0	林田			
22	(1)	PT	(2)	21

福井教員25〔13―11／12―8〕19 広島教職員（広島）

〔戦評〕前半、両チームとも激しいディフェンスのつめと、両キーパーの好守によりシュート数の割に得点が伸びず、12対8で福井カットインからの速攻、ミドル、ロング、サイドからのシュートと多彩な攻撃にて確実に加点。一方、広島もよく走りゲームをおもしろくした。得に福井キーパーの攻守が目立ち、両チームとも最後までよくがんばった。（手塚）

得	〔福井〕		〔広島〕	得
0	柴田	GK	三谷	0
			久保	0
10	竹野	FP	米田	3
2	半田		上村	3
3	加納	（審・田村、斉藤）	久保田	2
1	小林		高	3
5	中屋		山本	6
4	五十嵐		長谷	1
0	細川		工藤	0
0	川上		河野	1
25	(1)	PT	(0)	19

岐阜教員22〔10―10／12―10〕20 あかぎクラブ（群馬）

〔戦評〕岐阜は加藤のロング、群馬はサイド、ミドルシュートの攻撃で両チームスピードあるプレーの展開で前半12対10で岐阜リード。
　後半は両チーム18分まで2点差

で交互に得点の取り合いが続くも、群馬は相手のミスにつけ込み同点に追いついたが、最後岐阜は逆に群馬のミスより連続得点で勝利を得る。両チームともスピードがあり、好ゲームであった。（槇田）

得	〔岐阜〕		〔あかぎ〕	得
0	野田	GK	野口	0
0	田中		綿貫	0
1	名倉	FP	桜井	0
0	近藤		越石	2
3	飯島	（審・見方・錦織）	斉藤	0
0	牧野		今井	6
0	木田		長谷川	2
9	加藤		岡田	2
1	上野		栗田	2
0	西尾		新井	2
6	高橋		譲原	4
2	林		小金沢	0
22	(5)	PT	(3)	20

大阪イーグルス 28 〔15－12／13－7〕 19 熊本教員ク（大阪）

〔戦評〕熊本教員、開始早々速攻で2得点先取したが、ディフェンス力に優れる大阪イーグルスが個人技を生かし得点をあげ、6点リードで前半を終了。

後半、熊本教員の得点で始まり、その後一進一退のゲームが続いたが、攻守、チーム力に優れる大阪イーグルスがセットプレーを中心に着々と得点し、実力通り勝利をつかんだ。（錦織）

得	〔イーグル〕		〔熊本〕	得
0	太田	GK	中野	0
4	勝本	FP	田中	3
4	源野		財満	3
1	成願	（審・菅野・半田）	北島	3
3	大西		古田	0
1	三谷		野口	2
4	岩本		宮瀬	0
11	辻本		四宮	5
			川西	3
28	(0)	PT	(4)	19

埼玉教員ク 36 〔19－16／17－8〕 24 岩手教員ク（埼玉）（岩手）

〔戦評〕前、後半とも埼玉はよく走り、ポスト、サイド、ミドルとシュートを決め、確実に得点した。岩手はスタートから攻守ともにかみ合わず、敗れた。（菅野）

得	〔埼玉〕		〔岩手〕	得
0	大崎	GK	藤原	0
			多田	0
0	宮沢	FP	谷藤節	6
13	田中		谷藤玲	2
8	岩本	（審・槇田・手塚）	山本	4
2	池田		山口	3
3	山中		平野	4
4	綿引		大沢	4
4	谷井		筑後	1
2	野平			
36	(4)	PT	(3)	24

愛知教員 26 〔14－12／12－7〕 19 わかくさクラブ（奈良）

〔戦評〕前半、愛知教員のポストプレーと速攻で加点する。一方、わかくさクラブは7番金丸を中手にカットインプレーや、ロングシュートで追い上げるが、5点差で前半終了。

後半も互いに活気あふれるプレーの連続であったが、着実にシュートチャンスをものにした愛知が3回戦に進んだ。両チームの健闘をたたえたい。（半田）

得	〔愛知〕		〔わかくさ〕	得
0	本地	GK	小野	0
2	下山	FP	矢野	0
2	楓		小林	7
2	中野	（審・田村・斉藤）	金丸	4
5	細井		村田	6
3	高須		谷	0
7	徳永		田中	2
5	早川			
26	(1)	PT	(1)	19

京都教員ク 29 〔16－9／13－4〕 13 茨城コンドルズ（京都）

〔戦評〕セットで先取した京都、コードが狭いせいか両チーム何かムードに乗れず、お互いミスの連続。京都のGKの判断のよいキーピングで13対4で前半終了。

後半に入っても同じような展開。攻守共に雑なプレーが続き、結局京都が力で勝った試合であった。（志々場）

得	〔京都〕		〔コンドル〕	得
0	山下	GK	稲見	0
0	咲本			
6	国府	FP	阿部	4
3	佐久間		安田	0
5	楠本	（審・清水・碓井）	鈴木	0
0	杉山		佐藤	1
0	池辺		横山	2
2	西田		吉井	4
6	西村		長谷川	2
1	中村		神矢	0
4	加藤			
2	清水			
29	(5)	PT	(2)	13

山口県教員団 25 〔15－10／10－5〕 15 富山教員（山口）

〔戦評〕ゼーム開始、互いに得点が入らなかったが、4分過ぎ富山が先取点を入れペースをつかむかに見えたが、山口はセット攻撃、速攻から得点を入れ、前半10対5で終了。

後半、富山は9番中浦が得点を入れ追いかける。また、山口は7番原井が6得点を入れ富山の追い上げをかわす。残り10分くらいから富山のあきらめムードが見られたようだ。（庄司）

得	〔山口〕		〔富山〕	得
0	吉村	GK	須波	0
0	古谷		藤森	0
3	飯島	FP	小嶋	0
2	吉兼		栗山	1
5	角	（審・中島・高野）	竹内	0
2	岡村		幸塚	1
7	原井		東瀬	0
3	中村		沢井	2
0	河村		中浦	6
1	白川		金原	0
1	和田		秀永	1
1	片山		越前	4
25	(2)	PT	(3)	15

香川教員 44 〔25－7／19－7〕 14 ポルシェクラブ（香川）（千葉）

〔戦評〕総合力に勝る香川教員がスタートから速攻を中心に得点を重ね、大差をつけて楽勝した。ポルシェは11番日根野のリードのもと技術的には経験年数の若い教員の方々と見受けたが、大差にも拘らず、得点をあげるごとに素直な

得	〔香川〕		〔ポルシェ〕	得
0	溝水	GK	五喜田	0
9	渡里	FP	中摩	0
5	亀井		志賀	3
4	渡辺	（審・志々場・庄司）	高雄	1
8	泉谷		黒川	0
6	谷口		蛯名	4
3	竹本		滝本	4
2	上濱		佐藤	0
1	真嶋		日根野	2
6	杉山			
44	(3)	PT	(3)	14

喜びがコートにあふれ教員チームのあり方の原点のうつとして興味深く観戦することができた。(北井)

佐賀教員葉隠 25 〔1312／1113〕 24 埼玉ライオンズ
(佐賀)　(埼玉)

〔戦評〕前半、埼玉はサイド、速攻、カットイン、ミドルなどで得点を重ねる。一方、佐賀もポスト、速攻、ミドルで得点を入れシーソーゲームであったが、埼玉1点リードで前半終了。

後半に入り、佐賀はカットイン、速攻、ミドルで得点を入れ、10分で同点に追いつき、その後互いに速攻、ミドル、サイドシュートなどで得点を入れ追いつ追われつのゲームとなったが、残り1分で佐賀がリードしそのまま逃げ切る。(中島)

	〔ライオンズ〕	得	〔佐賀〕	得
GK	牧田	0	谷崎	0
FP	稲村	5	白木	4
	寿川	2	宮地	5
	井川	5	境	4
	吉田	2	小松	6
	石塚	3	石橋	0
	島田	0	牟田禎	0
	渡辺	6	三上	0
	久保	1	中村	0
			牟田安	6
PT	(1)	24	(2)	25

(審・清水・碓井)

栃の葉クラブ 39 〔1920／3 10〕 13 静岡教員団
(栃木)

〔戦評〕前半、どちらもよく走り興味を誘ったが、上手にパスをつなぐことができた栃の葉クラブは積極的な攻撃でチャンスを得点に結びつけ、20対10のリードで前半を終了させた。

後半、ディフェンスの弱点とミスプレーから立ち直ることができなかった静岡教員チームは精一杯のプレーを見せてくれたが、精神、技術的に栃の葉クラブが上であり、39対13でピリオドをうった。(高野)

	〔静岡〕	得	〔栃の葉〕	得
GK	能勢	0	岩下	0
FP	鈴木	0	中田	7
	畑中	0	四元	4
	大石	2	山下	8
	石川	4	新開	1
	清水	2	武井	5
	菊地	2	岸	1
	小野	0	滝口	9
	栗田	3	小西	3
	細沢	0	中山	0
			川田	1
PT	(1)	13	(2)	39

(審・上久保・北井)

3回戦

長野教員 26 〔1511／1311〕 24 沖縄教員

〔戦評〕身長差で劣る沖縄だが、スピードある走りとクイックシュートを生かし健闘する。長野もよく走り、矢島を中心として反撃する。一進一退のゲーム展開の中で前半終了間際の1分間の点の取り合いはみごとであった。

後半も同じようなゲーム展開で推移したが、残り10分のとき沖縄に退場者が2人出てしまったが、ここでよくしのいだのが、フィールドプレイヤーが6人揃ったところで逆に安心感が出たのか、加点されてじりじり点差がついた。両チームともスピード感あふれる好チームでハンドボールの醍醐味を満喫できた。(矢澤)

	〔沖縄〕	得	〔長野〕	得
GK	仲間	0	北島	0
FP	上原	5	竹内	0
	仲里	0	塩川	5
	仲本	5	矢島	8
	屋嘉部	0	行田	2
	大城	5	中条	0
	宮元	0	小山	3
	知念	1	鳥谷越	4
	高良	0	岩下	3
	仲田	8	小口	1
	金城	0		
PT	(3)	24	(0)	26

(審・田村・斉藤)

埼玉フェニックス 26 〔1412／1012〕 22 大阪教員ク

〔戦評〕試合開始早々、大阪はペナルティースロー、サイドよりのシュートと連続得点し、ゲームの指導権を握ったかに見えたが、埼玉フェニックスもじわじわと追い上げ、前半の半ばでは一進一退の攻防となり試合が盛り上がった。前半は12対12の同スコアで折り返す。

後半も同様な攻防がくり返されたが、中盤に埼玉は速攻で加点し4点差をつける。また、10番塚本のサイドよりのうまいシュートでの加点もあり指導権を握った。大阪も意地を見せ、必死に追い上げたが及ばなかった。(横瀬)

	〔大阪〕	得	〔フェニ〕	得
GK	伊藤	0	阿部	0
			田中	0
FP	裕	7	山田	3
	尾崎	3	山下	0
	前出	3	山口	4
	佐々木	3	松浦	1
	浦	0	土屋	5
	高原	2	小林	2
	竹内	0	谷本	0
	前田	3	伊藤	6
	天野	1	塚本	2
			渡辺	3
PT	(2)	22	(1)	26

(審・志々場・庄司)

滋賀教員 28 〔1513／1013〕 23 北海道教員

〔戦評〕北海道は最初から速攻、ミドルと決まりペースに乗るが、滋賀も徐々に粘りを見せて20分に追いつく。その後一進一退が続くが、北海道は退場者が続き、滋賀にリードを許すも速攻で同点にして前半を終了する。

後半は立ち上がりから滋賀がペースをつかむ。やはり北海道は退場者が続出し、一気に滋賀がつき離した。北海道は焦りからミスも目立ちなかなか追い上げられない。結果的に、退場者を多く出した北海道が自滅したゲーム内容であった。(見方)

	〔北海道〕	得	〔滋賀〕	得
GK	松沢	0	松山	0
	柿沼	0		
FP	佐藤	4	位田	2
	加藤	2	伊藤	4
	大橋	2	能波	5
	田村	0	井上	6
	米内山	5	武田	6
	三浦	8	大野	2
	近嵐	0	橋山	0
	渡辺	0	山根	3
	伊藤	0	林田	0
	小野寺	2		
PT	(2)	23	(1)	28

(審・矢澤・横瀬)

岐阜教員 31 〔1318／1212〕 24 福井教員

〔戦評〕福井のスローオフで試合が始まり開始早々、ペナルティースローを得た岐阜が速攻を主体にゲームを進め得点を重ねる。一方福井教員は相手の固いディフェンスを破ることができず苦戦。

後半に入っても若さに勝る岐阜のスピードとパワーに福井がついていけず、攻守にも勝る岐阜教員の一方的なゲームであった。なお、この試合前半、福井の加納が岐阜のキーパーの顔面にボールをあてて失格となった。(錦織)

	〔福井〕	得	〔岐阜〕	得
GK	柴田	0	野田	0
			田中	0
FP	竹野	4	名倉	4
	半田	3	近藤	1
	加納	1	飯島	4
	小林	2	牧野	0
	中屋	8	木田	0
	五十嵐	4	加藤	6
	細川	1	上野	3
	川上	1	西尾	1
			高橋	5
			林	7
PT	(3)	24	(2)	31

(審・浜野・佳森)

埼玉教員ク 24 〔1113／1310〕 23 大阪イーグルス

〔戦評〕どちらのチームもよく走り、またディフェンスもよく、一進一退の展開であった。最後まで(前半)両者互いに譲らなかったが、大阪のちょっとしたミスを埼玉が速攻などに結びつけ、13対10で終了(埼玉がリード)。

後半に入ってからも大阪の凡ミスが目立ち、そのミスを得点につなげた埼玉が有利に展開したのであるが、終了6分ごろから大阪の

チーム力が爆発し追い上げたが、埼玉が逃げ切った。最後まで白熱した好ゲームであった。（小林）

〔イーグル〕	得		〔埼玉〕	得
太田	0	GK	大崎	0
勝本	2	FP	宮沢	0
源野	1		田中	11
成瀬	0		岩本	0
大西	0		池田	4
三谷	5		山中	2
岩本	2		綿引	5
辻本	13		谷井	0
			野平	2
(2)	23	PT	(5)	24

（審・中島 高野）

京都教員ク30 〔16 14／12 5〕 17愛知教員

〔戦評〕京都教員クラブはまとまったチームプレーが生かされた。特にハーフ速攻はチーム全体の士気を高めると共にバランスづくりに役立ち、一方的な試合の原動力となり、前半14対5と大差でリードする。

後半、愛知教員は試合を捨てることなくいろいろな攻撃を試みたが、鉄壁のように固いディフェンスを破ることができないで終了する。得点の差はあったが、努力が見受けられた愛知教員に拍手を送りたい。（高野）

〔愛知〕	得		〔京都〕	得
本地	0	GK	山下	0
			咲本	0
下山	0	FP	田村	3
楓	1		佐久間	2
中野	2		楠本	10
細井	1		池辺	1
高須	4		西田	3
徳永	7		西村	1
早川	2		中村	0
			加藤	4
			清水	3
			大島	3
(0)	17	PT	(2)	30

（審・大河原 小林）

山口教員団33 〔16 17／15 12〕 27香川教員

〔戦評〕前半10分間、両チーム共に足を使いよく動き一進一退のゲームとなるが、その後山口が速攻を中心に加点、山口ペースの展開となる。香川も再三ノーマークシュートを打つが山口のGK古谷の好守により5点差で前半を終了。

後半に入っても山口の先攻で点数が動き出す。香川も速攻を出しがんばるが、選手層に厚さのある山口の勝利でゲームが終わる。（田中）

〔香川〕	得		〔山口〕	得
溝内	0	GK	吉村	0
			古谷	0
渡里	8	FP	飯島	4
亀井	1		吉兼	4
渡辺	3		角	6
泉谷	4		岡村	4
谷口	4		原井	3
竹本	3		中村	6
上濱	0		河村	2
真嶋	2		白川	2
杉山	2		和田	1
			赤地	1
(0)	27	PT	(2)	33

（審・半田 菅野）

栃の葉ク41 〔19 22／5 7〕 12佐賀教員隠

〔戦評〕開始3分ごろから栃の葉ペースで進み、高さと固いディフェンスで佐賀を圧倒した。佐賀も力強い動きで突破しようとがんばるのだが、どうしても高いディフェンスを破ることができず、前半で15点差と大きく離れてしまった。

速攻とロングを得意とし、着実に追加点をした栃の葉が勝った。（半田）

〔佐賀〕	得		〔栃の葉〕	得
谷崎	0	GK	岩下	0
白木	2	FP	中田	5
宮地	0		四元	0
境	4		山下	3
小松	2		新開	5
石橋	0		武井	5
年田禎	0		薄井	8
三上	0		岸	6
中村	0		滝口	5
年田安	4		小西	1
			川田	3
(1)	12	PT	(0)	41

（審・林 田中）

準々決勝

長野教員25 〔13 12／8 10〕 18埼玉フェニックス

〔戦評〕速攻と矢島と中心としたミドルシュートに特徴をもつ長野教員が、立ち上がり2点をリードしてスタートしたが、埼玉ファニックスも時折見せる速攻やポストシュートなどで点差が離れない。試合運びがスローペースになり埼玉ペースで前半を終了した。

後半も同じようなペースで展開したが、長野教員がスピードに勝り、埼玉フェニックスの必死の喰い下がりも突き離しに成功した。（矢澤）

〔フェニ〕	得		〔長野〕	得
阿部	0	GK	北島	0
田中	0			
山田	2	FP	竹内	0
山下	0		塩川	2
山口	4		矢島	7
松浦	4		行田	4
土屋	1		中条	0
小林	0		小山	2
谷本	0		鳥谷越	2
伊藤	7		岩下	8
塚本	0		小口	0
渡辺	0			
(0)	18	PT	(1)	25

（審・見方 錦織）

岐阜教員27 〔15 12／10 8〕 18滋賀教員

〔戦評〕互いに速い動きで攻め合うが、チャージやオーバーステップなどのミスが多くなかなか点につながらない。12分、滋賀に2人の退場者が出たがよく守り、逆に加点して同点となる。残り10分からは一進一退で点の取り合いとなったが、残り3分からは岐阜の速攻が続けて決まり、4点差で前半を終了。

後半、滋賀は連続得点で粘りを見せたが、岐阜の速攻がつぎつぎと決まりどうしても差を縮めることができない。途中互いに退場者を多く出したが、確実に速攻を決めた岐阜が滋賀を突き離した。（見方）

〔滋賀〕	得		〔岐阜〕	得
松山	0	GK	野田	0
			田中	0
位田	1	FP	名倉	1
伊藤	1		近藤	0
能波	3		飯島	3
井上	6		木田	0
武田	2		加藤	4
大野	3		鈴木	0
橋山	1		上野	4
山根	1		西尾	1
林田	0		高橋	9
			林	5
(3)	18	PT	(1)	27

（審・上久保 北井）

埼玉教員ク20 〔8 12／7 11〕 18京都教員ク

〔戦評〕前半、京都は相手のミスを速攻に結びつけたり、西田のジャンプシュートなどでリードするが残り8分ごろ、埼玉はペナルティーで同点とし、田中の活躍もあり1点差の12対1で終了。
後半に入ると京都は3連続得点し、流れを自分たちのものにしたかに見えたが、埼玉もポストプレー、手渡し、転がしパスを多様に使い反撃。12分過ぎ再度逆転に成功。一時は同点とされ京都の奮起も残念ながら一歩及ばなかった。（林）

〔京都〕		得
GK	山下	0
FP	咲本	0
	国村	2
	佐久間	2
	楠本	6
	杉山	0
	池辺	0
	西田	4
	西村	4
	中村	0
	加藤	0
	清水	0
PT	(2)	18

（審・半田 菅野）

〔埼玉〕		得
GK	大崎	0
FP	宮沢	0
	田中	8
	岩本	0
	池田	6
	山中	3
	線引	3
	谷井	0
	野平	0
PT	(3)	20

栃の葉ク 28 （11－9，17－8） 17 山口教員団

〔山口〕		得
GK	吉村	0
	古谷	0
FP	飯島	6
	吉兼	1
	角	3
	岡村	0
	原井	2
	中村	5
	河村	0
	白川	0
	和田	0
	片山	0
PT	(0)	17

（審・田中 林）

〔栃の葉〕		得
GK	岩下	0
FP	中田	2
	四元	0
	山下	5
	武井	7
	薄井	6
	岸	1
	滝口	5
	小西	0
	中山	2
	川田	0
PT	(1)	28

〔戦評〕前半、スタートから栃の葉はよく走り速攻から連続得点する。山口はサイド、ミドルで対抗するが、防御をくずすところまでいかず9点差で終了。
後半も栃の葉ペースで進み、多彩な攻撃を見せた。山口も飯島、角を中心に追い上げようとするが、点差は縮まらなかった。（菅野）

準決勝

長野教員 26 （13－15，13－8） 23 岐阜教員

〔戦評〕前半、長野は岐阜のパスミス、シュートカットなどから連続得点し5点差をつけて終了。後半、岐阜は加藤を中心に追撃し、2点差まで詰め寄るが、長野の個人技に防御がついていけずに得点を許し敗れた。（菅野）

〔岐阜〕		得
GK	野田	0
	田中	0
FP	名倉	0
	近藤	0
	飯島	2
	木田	0
	加藤	11
	鈴木	0
	上野	1
	西尾	0
	高橋	5
	林	4
PT	(3)	23

（審・北井 菅野）

〔長野〕		得
GK	北島	0
FP	竹内	0
	塩川	0
	矢島	7
	行田	2
	中条	0
	小山	5
	鳥谷越	4
	岩下	8
PT	(1)	26

埼玉教員ク 27 （17－10，10－7） 17 栃の葉ク

〔戦評〕開始より埼玉の細かいプレーが栃木のディフェンスを突破できず、栃木ペースで試合が進むかと思われたが、点数が思うように伸びず1点を争うゲームとなった。前半終了5分前より栃木に退場者が相次ぎ、また、埼玉GKもよくあたり出し速攻中心に3点差をつけて埼玉リードで前半終了。
後半に入り、栃木の巻き返しが期待されたが、逆にミスが相次ぎ10分過ぎからはたて続けに埼玉の速攻が決まり一気に点差が開いてしまった。
埼玉GK大埼の再三に渡るファインプレーが光った。（清水）

〔栃の葉〕		得
GK	岩下	0
FP	中田	0
	山下	3
	新開	1
	武井	4
	薄井	3
	岸	0
	滝口	4
	小西	0
	中山	2
	川田	0
PT	(2)	17

（審・半田 菅野）

〔埼玉〕		得
GK	大崎	0
FP	宮沢	1
	田中	8
	岩本	4
	池田	2
	山中	2
	綿引	8
	谷井	0
	野平	2
PT	(3)	27

3位決定戦

岐阜教員 21 （10－12，11－9） 21 栃の葉ク
7 PTC 6

〔戦評〕5分過ぎ、栃の葉ロング、速攻とたて続けに得点しペースをつかんだ。岐阜はその間よく耐えた。15分過ぎ、相手のシュートミスが連続して出たところを逆速攻に結びつけ逆転し前半を終了。
後半のはじめ、栃の葉のロングシュートが決まり反撃開始かと思われたが、その後のシュートがボール一つゴールポストからずれており得点に結びつかない。
これに対し岐阜は速攻から着実に得点をあげ、主導権を完全に握った。しかし、栃の葉も気力をふりしぼりロングシュート、サイドシュートとじりじりと加点し、ラスト40秒、ついに同点に追いついた。
延長戦なしのPTCの結果、7投目（7対6）で岐阜が勝利した。（矢澤）

〔栃の葉〕		得
GK	岩下	0
FP	中田	2
	四元	0
	山下	3
	新開	0
	武井	10
	薄井	3
	岸	1
	滝口	5
	小西	2
	中山	1
PT	(0)	27

（審・田中 林）

〔岐阜〕		得
GK	野田	0
	田中	0
FP	名倉	2
	近藤	0
	飯島	1
	牧野	0
	木田	0
	加藤	13
	鈴木	0
	上野	2
	高橋	8
	林	2
PT	(4)	28

決勝

埼玉教員ク 37 （10－13，21－10） 23 長野教員

〔戦評〕埼玉は長野のディフェンスの甘さを綿引を中心に攻め、守ってはミスを誘い速攻に結びつけ着実に加点する。一方の長野も反撃するがシュートミスが目立ち最後までリズムをつかめなかった。
ここまで勝ち上がり頂点に立った埼玉教員に大きな拍手を贈るとともに、長野教員の今大会の健闘を讃えたい。（林）

〔長野〕		得
GK	北島	0
FP	竹内	0
	塩川	3
	矢島	6
	行田	2
	中条	0
	小山	4
	鳥谷越	5
	岩下	3
PT	(2)	23

（審・北井 上久保）

〔埼玉〕		得
GK	大崎	0
FP	宮沢	0
	田中	6
	岩本	4
	池田	2
	山中	6
	綿引	14
	谷井	5
	野平	0
PT	(3)	37

女子

1回戦

群馬教員（群馬） 26 （11－4，15－7） 11 北海道教員（北海道）

〔戦評〕1回戦第1試合、群馬教員のスローオフで試合が始まり、開始2分群馬教員が得点を上げたがシュートカットが多く、思うように得点を上げることができない。一方開催地北海道は練習量が少ないのかパスミスが多く、あまり得点につながらず苦戦。終始、走り（速攻）の差を見せた群馬教員が大差で地元北海道を下し、1回戦を突破した。（錦織）

	〔北海道〕	得		〔群馬〕	得
GK	北島	0	GK	大工原	0
				宇津木	0
FP	藤村	0	FP	石坂	1
	加藤	1		武田	3
	福山	0		横山	1
	吉田	1		鈴木	5
	中島	0		大川	4
	佐藤	2		荒瀬	11
	瀬戸	1		井田	0
	提	0		江口	0
	高垣	4		大澤	1
	橋本	2			
PT	(2)	11	PT	(1)	26

（審・手塚 槇田）

埼玉教員 白小鳩 26〔13-8, 13-9〕17 兵庫教員 風見鶏ク
（埼玉）（兵庫）

〔戦評〕前半開始、埼玉がキャプテン田島のロング、カットインなどで先行した。兵庫も埼玉のディフェンスを破ろうと努力するが、足を使った組織ディフェンスを破れず速攻で加点される。15分、兵庫もパスカットによる逆速攻、カットインなどで反撃開始し、前半3対8で終了する。

後半に入っても埼玉は田島、石井を軸とした攻撃より着実に加点した。兵庫もサイドシュートで反撃するが、最後まで埼玉のディフェンスを破れずに終了した。（住森）

	〔風見鶏ク〕	得		〔白小鳩〕	得
GK	丸茂	0	GK	塩畑	0
				根岸	0
FP	畑	4	FP	中川	2
	呉田	1		田島	7
	小倉	1		坂口	2
	中尾	1		七木田	4
	和田	1		鈴木	2
	矢野	0		石井	6
	尾上	9		内田	2
				百瀬	1
				木村	0
				岡崎	0
PT	(1)	17	PT	(4)	26

（審・見方 錦織）

山口県女子教員ハンド 21〔10-6, 11-7〕13 茨苑クラブ
（山口）（茨城）

〔戦評〕立ち上がり苦労しながらも茨城がサイドからの得点を重ねる間、山口は警告、退場を出し、シュートを打ってもキーパー酒井の好守にはばまれて得点にならないまま10分が過ぎる。山口が速攻からやっと点を入るとペースをつかみ次々と速攻が決まり、逆転に成功。そして一気に離して前半を終了した。

後半に入ってからも山口が速攻、セットで着実に点を重ねてじりじりと離し、勝負を決めた。負けた茨城も最後まで健闘し、好感の持てるゲームであった。（見方）

	〔茨苑ク〕	得		〔山口〕	得
GK	酒井	0	GK	柴田	0
FP	高野	3	FP	前田	2
	横田	2		栗林	4
	川又	0		豊永	2
	蓮田	1		山村	1
	海老原	0		岩本	0
	山田	2		河村	2
	大越	5		吉原	0
				神田	0
				中田	9
				長野	0
PT	(4)	13	PT	(3)	21

（審・浜野 住森）

2回戦

京都教員 31〔10-4, 21-5〕9 群馬教員
（京都）

〔戦評〕試合開始、京都谷坂の速攻の得点で火ぶたが切られ、10分群馬がペナルティーを決め3対3の同点。京都、群馬とも攻防に健闘。残り10分、6対4で京都が優位に立ち始め10対4で折り返した。

後半、京都のリズムになり一方的な試合となった。群馬・荒瀬のプレーが光っていたが、残念ながら31対9で京都が群馬を下した。中でも京都・藤田、小橋らのプレーが光っていた。（浜野）

	〔群馬〕	得		〔京都〕	得
GK	大工原	0	GK	畑添	0
	宇津木	0		山本	0
FP	石坂	0	FP	矢野	2
	武田	3		池上	0
	横山	0		山戸	0
	鈴木	3		藤田	7
	大川	1		渡辺	2
	荒瀬	2		谷坂	5
	井田	0		中尾	2
	江口	0		小橋	7
	大澤	0		大野	6
				多田	0
PT	(1)	9	PT	(4)	31

（審・林 田中）

白梅教員 18〔6-6, 12-10〕16 神奈川教員
（岩手）（神奈川）

〔戦評〕神奈川の高いディフェンスに岩手は最初苦しんだが、足を使い早い動きで反撃し、前半6対6の同点で終了する。

後半に入ってから岩手はサイドポストを有効に生かし、主導権を握る。焦る神奈川のミスを速攻へつなげ着実に加点する。神奈川も大久保中心にがんばりを見せるが、今一歩及ばなかった。前半のファールが動きを止めてしまったのが敗因であった。（林）

	〔神奈川〕	得		〔白梅〕	得
GK	大森	0	GK	工藤絹	0
FP	野島	3	FP	工藤里	3
	稲田	3		川村み	0
	大久保	7		堀米	6
	高倉	0		川村ゆ	1
	安室	1		大志田	3
	岩渕	2		五日市	3
				鈴木	0
				岩脇	2
				川井	0
PT	(4)	16	PT	(1)	18

（審・佳森 浜野）

埼玉教員 白小鳩 31〔18-3, 13-8〕11 千葉クラブ
（千葉）

〔戦評〕埼玉はスピードある攻撃でカットイン、ロングポストと得点を重ね、ディフェンスもよく足を使った好ディフェンスで千葉の攻撃に対してスキを与えず、10分過ぎより速攻を重ね加点し一方的なゲーム展開となった。また、キーパーの好守もすばらしかった。

後半、埼玉にもミスが多くそのスキを突き千葉が速攻、カットインなどで点を加えたが、埼玉のディフェンスを破れず終了した。（住森）

	〔千葉ク〕	得		〔白小鳩〕	得
GK	高田	0	GK	塩畑	0
				根岸	0
FP	大森	0	FP	市川	3
	石塚	1		田島	6
	天野	2		坂口	1
	海老根	1		七木田	3
	上田	3		鈴木	3
	谷川	1		石井	8
	羽生	1		内田	2
	久保	2		百瀬	5
				木村	0
				岡崎	0
PT	(0)	11	PT	(2)	31

（審・林 田中）

愛知教員女子クラブ 23（16－7、7－9）16 山口県教員女子ハンド（愛知）

〔戦評〕愛知教員の速攻でゲームが始まり、足を使ったディフェンスでよく守る天野がよくチームをコントロールしていた。一方山口も河村の負傷退場が痛く、ノーマークシュートを落とすことも多く、前半は16対7で終了。

後半は山口ペースで展開し、足も動き出し、一時は5点差までつめ寄るが、いい所で愛知の速攻で点差が広がる。特に愛知・大久保の得点で常に有利にチームを進め、23対16で愛知教員の勝利で終る。（田中）

得	〔山口〕		〔愛知〕	得
0	柴田	GK	三宅	0
2	前田	FP	天野	3
2	栗林		山田	2
6	豊永		大久保	11
0	岩本		富田	2
3	河村		関	3
1	吉原		二村	2
0	神田			
2	中田			
0	長野			
16	(2)	PT	(5)	23

（審・浜野・住森）

準決勝

京都教員 35（18－4、17－5）9 白梅教員

〔戦評〕練習量豊富な京都教員が前半からよく走り、サイド、ポスト、ミドルと多彩な攻撃で得点した。一方白梅もボールを回しシュートを狙うが、京都の厚いディフェンスを最後まで破れなかった。京都教員の快勝である。（谷藤）

得	〔白梅〕		〔京都〕	得
0	工藤絹	GK	畑添	0
			山本	0
0	工藤里	FP	矢野	3
0	川村み		池上	4
3	堀米		山戸	0
1	川村ゆ		藤田	5
3	大志田		渡辺	1
2	五日市		谷坂	10
0	鈴木		中尾	3
0	岩脇		小橋	4
0	川井		大野	5
			多田	0
9	(1)	PT	(2)	35

（審・清水・碓井）

愛知教員女子クラブ 23（9－9、14－9）18 埼玉教員白小鳩

〔戦評〕ともに試合巧者、一進一退の展開となった。5分過ぎから埼玉の速攻が出、ペースに乗るかに見えたが、愛知もカットイン、ロングシュートで追う。10分過ぎ、ディフェンスがきつく警告退場者が続出したが、その後落ち着きを取り戻した。ホイッスルと同時に愛知の得点が決まり、9対9の同点で前半終了。

後半は開始早々より愛知のセットオフェンスが決まり、10分過ぎまで連続6得点で一挙に差を広げた。その後点の取り合いとなったが、愛知が地力に勝り、勝利を収めた。（碓井）

得	〔白小鳩〕		〔愛知〕	得
0	塩畑	GK	三宅	0
0	根岸			
0	市川	FP	神奈	3
4	田島		天野	6
1	坂口		山田	0
2	七木田		大久保	4
0	鈴木		富田	5
8	石井		関	4
0	内田		二村	1
3	百瀬			
0	木村			
0	岡崎			
18	(2)	PT	(2)	23

（審・小友・谷藤）

3位決定戦

群馬教員白小鳩 21（11－5、10－6）11 白梅教員

〔戦評〕前半、立ち上がりは両チームともシュート数はかなり多かったが、お互いに得点にむすびつかず、わずかにペナルティースローで1対1であった。10分経過して埼玉は相手チームのシュートミス、パスミスを速攻に結びつけ、11対5とリードして終了する。

後半はお互いに得点の取り合いでゲームが盛り上がった。結局、前半での差がそのままあり、埼玉が勝利をものにする。岩手もサイドよりのうまいシュートなどでがんばったが及ばなかった。（横瀬）

得	〔白梅〕		〔白小鳩〕	得
0	工藤絹	GK	塩畑	0
			根岸	0
1	川村み	FP	市川	4
8	堀米		田島	1
0	川村ゆ		坂口	1
1	大志田		七木田	3
1	五日市		鈴木	1
0	鈴木		石井	6
0	岩脇		内田	2
0	川井		百瀬	2
			木村	1
			岡崎	0
11	(4)	PT	(2)	21

（審・林・田中）

決勝

京都教員 28（14－8、14－6）14 愛知教員女子クラブ

〔戦評〕決勝戦らしくお互い白熱したゲーム展開であったが、京都は10分過ぎ堅い守りから速攻につなぎ、流れをつかむ。愛知もペナルティーを誘い反撃するが、その後も走りを生かしたハーフ速攻などで調子を上げ、14対8と折り返す。

守ってからの走りは後半も変らず加点する。一方の愛知も全員一丸となり攻撃するがGKの好守もあり、健闘したが及ばなかった。国体に臨む気力がうかがわれた京都チームであった。（林）

得	〔愛知〕		〔京都〕	得
0	三宅	GK	畑添	0
			山本	0
0	神谷	FP	矢野	0
1	天野		池上	3
0	山田		山戸	0
8	大久保		藤田	3
1	富田		渡辺	1
0	関		谷坂	1
4	二村		中尾	9
			小橋	8
			大野	3
			多田	0
14	(4)	PT	(1)	28

（審・横瀬・矢澤）

第1回アジア・ユース選手権大会

日本は第7位に終る

第1回アジア・ユース選手権は8月5日から15日まで9カ国が参加してシリアのダマスカスで開催された。

日本からも選抜チームを編成、参加したが、残念ながら十分な練習期間がなく、第7位に終った。

以下に成績と監督、選手の報告の一部をご紹介する。

〔最終成績〕

①韓国
②クウェート
③シリア
④台湾
⑤カタール
⑥アラブ首長国連邦
⑦日本
⑧パレスチナ
⑨イラン

○第1戦（8月6日）

カタール12 {6−7, 6−4} 11日本

〔戦評〕日本は前半11分まで堅い守りで、4−4と順調なスタートを切ったが、11分を過ぎてミスが続いて6−4と逆転されて、いやなムードで試合が展開していた。しかし、しっかりした守りで少ないチャンスをものにして、前半の終盤にはカタールのシュートを防いで7−6と逆転に成功した。

このままの展開で進むかと思われたが、日本にミスが出て後半すぐに逆転された。後半10分までは全くのカタールのペースでカタールに4連続得点を許し10−7となる。カタールの堅い守りに後半多くのシュートを外した日本は、少ないチャンスを確実にじっくり攻めたカタールの前に惜敗した。

○第2戦（8月8日）

韓国34 {20−10, 14−9} 19日本

〔戦評〕開始4分まで互角に進行した。5分過ぎからは日本は韓国の堅い守りに左からのサイドシュートをはずしたり、ミスしたりで韓国の中央からの攻撃を許し、連続6点を献上してしまった。日本は堅い守りの韓国に対して壁が破れず、韓国のソツない速攻での中央からのシュートを許して、着々と加点されてしまう。

後半も左右両サイド、中央からのシュート、5分から13分にかけて14連続のシュートを日本は得点に結びつけることができず、退場者を出した韓国の守りも破れず、終盤追い上げたが、全体的に見てソツなく加点していた韓国に及ばなかった。

○第3戦（8月11日）

日本19 {8−9, 11−10} 19パレスチナ

〔戦評〕日本は2点先取して調子に乗れるかと思った矢先、3分から11分までミスが続いてパレスチナに連続5点を許していやなムードで試合が進んでいった。中央から割ってくるパレスチナのペースのうちに、日本も全面からのシュートを半分ものにして互角に戦いを進めた。日本は、ペナルティーを3つ失敗したのも試合を苦しいものにした。

後半は、10分まで多くのミスを出したものの日本ペースで展開した。身長で勝る日本は、堅い守りでパレスチナをゴールエリアから遠去けることにいく分成功したものの、パレスチナに3つのペナルティーを許し、リードを守れなかった。終盤よく守って引き分けた。

○第4戦（8月13日）

日本23 {10−10, 13−9} 19イラン

〔戦評〕前半の15分までは、日本にミスが出て苦しい立ち上がりとなった。しかし余裕のあった日本は、15分を過ぎて守りを固めて逆転し、勢いづいてきた。押し気味に試合を進めたが、前半の終りにミスが出て同点に追いつかれた。
しかし後半に入って、イランのミスから押し気味に試合を進め、10分頃には4点差をつけて余裕の内にゲームを進めた。終盤イランも反撃を見せたが、後半早々の日本の得点がものをいって逃げ切った。点差をつけた中盤以降、日本にミスが少なかったのは、余裕があったためであろうか。

監督、選手の感想文から

監督・本田　洋

第1回アジア・ユース選手権大会に臨むにあたり、選手編成には困難をきたした。

本大会中、日本国内ではインターハイの期間中であり、優秀な選手群によるチーム編成ができなかったこと、都道府県のインターハイ予選終了後（6月30日）、インターハイに出場しない選手のリストをもとにパスポート、ビザ申請手続きを急遽行ない、強化練習も出来ないまま直接大会に臨まなければならなかったことなどがその理由である。

(1) 現地でのトレーニング、コンディショニング

現地到着2日後より下痢、発熱（風邪引きによる）の選手が続出した。アラブの地にて国際大会という圧迫に耐え切れない精神力の甘さにより、自己のコンディション調整を選手自らができないことは出発前より十分考慮していたことであるが、日の丸をつけての選手団であるだけに、最低レベルを下ることは「ならぬ」と強硬に早朝のトレーニングを行ない、毎日の練習は叱咤激励「気力、意欲」を呼び起こすトレーニングに終始する。

大会後半にはこの生活にも慣れコンディションの自己調整ができるように選手もなってきて、チーム力が向上したところで大会が終った。

〔下痢、発熱の原因〕

初めての国外遠征、飛行25時間慣れぬ食事、日本と比較して悪い環境、昼夜の激しい温度差に対して順応させていく精神力が乏しい。国内では、選手自身都合の良いように周囲の人たちが働きかけてくれる生活習慣で育ってきているため。

〔トレーニングにおいて「気力」を強調しなければならなかった原因〕

日本国内における技術優先の指導方法や技巧、かっこ良さに興味を引かれる選手の風潮が正しく克服されておらず、そのことにより身に付いてしまっているプレーが国際大会ではパワー不足や気迫に負ける結果となって現われている。

(2) 事業の総評と反省

第1回アジア・ユース選手権大会に参加した意義は大きい。しかし、大会に臨むにあたり、国内より優秀なメンバーを選抜し、強化しての参加でメダルを持って帰る選手団編成でなければならない。いかなる選手団であっても、臨むべきところに臨んでは、学ぶべきことは学んで帰国するのが当然ではある。今回は、最強のメンバー編成ができず、またチームとして強化する期間もなく大会へ臨まなければならなかったことは残念である。

日本代表として日の丸をつけて戦う場合の競技力とは、監督、コーチ、選手が一体となって現場で戦う競技力のみならず、それらを送り出す協会の運営力もまた競技力であり、また、広く言えば日本という国が、その競技に臨む競技力を問われているのである。

このことを考えれば、無念であり、1勝でも多く取れなかったことに対し責任を強く感じ、申し訳なく思います。

〔質問〕

①第1回アジア・ユース選手権大会に日本代表選手として選ばれた時の気持、そしてどのような選手になり、活躍してやろうと思ったかなどの感じたり、考えたことについて。

②出発してから大会、そして帰国までのコンディションについて。

③大会で学んだことについて。

後藤　聡

①まず自分は、選ばれたときの気持は、やはり嬉しい気持と、どんなチームメイトがいるかが気になりました。それでみんな各地区で活躍している選手がいたので、また一段と希望と活力でいっぱいでした。それで自分は一番上であるから、みんなを引っぱって行き、それでみんなに信頼され、それで頼りにされる選手として頑張る気持でした。

　それで自分ばかりシュートを打たないで下の者、下の者へパスをつなぎ自信をつけさすことも考えていました。自分も国外に出るのは初めてなので、他国の選手のいい所、悪い所も頭だけでなく、体に吸収していきたいと思います。

②8月2日に成田を出発してから自分はまず、飛行機で体調をくずし、これからの2週間を心配しました。シリアについて、まず心配したのは食事や飲料水のことでした。最初はなんとか、食事がめずらしく、食べていましたが、次第に食事にもあきてきて、お腹をこわす状態がつづきました。

　次にいわゆる日本でいう風邪とでもいいますか体があつくとても体のだるい状態で、ひどい時はあまり意識がありません。事実自分は、エレベーターの中で倒れてしまいました。これが自分で一番つらく、また一番いい経験になったことでした。それと、こんな風邪をひいてしまう自分の自己管理がなっていなく、深く反省し、これをきっかけにして頑張っていきたいと思います。

③まず自分は、コンディションのむずかしさやそれに打ち克つ気迫や緊張を学んだ。それと、外国選手のプレーはもちろん各国の、雰囲気やチームワークのいいのに自分はしばしば「すごいな」と思うことがあった。

　また、いつもは相手国の選手は、なごやかであるが試合前の朝などの顔つきや雰囲気が違う。これもやはり自分なりに考え学んだことでした。

花岡道治

①第1回アジア・ユース選手大会、日本代表選手に選ばれたときの気持は、自分でも何とも言えない嬉しさとユースに選ばれている選手について行けるかなという不安な気持がありました。

　それと、自分は、日本代表選手に選ばれたので、外人に負けないくらいのパワーとテクニックが出来るような選手になり、自分が持っている最大のテクニックを全力でつくし、全員に迷惑をかけないように一つ一つのプレーを大事に集中してやり、自分の事だけでなく、全員の事を考えることの事来るようなプレーヤーになり、上からバシバシ打って活躍したいと思います。

②飛行機で、日本を出発してからシリアまでの体調はとても良くダマスカスのホテルについてからの練習は良いコンディションでやれたと思う。2日目の朝から下痢と頭痛がして練習をすることがつらくなり、8日のカタール戦ではそこまで苦しくなかったが、11月のパレスチナ戦では、頭が痛く熱が高くとても苦しい中で試合をして、試合中でも熱のせいで、目がボーとなって自分が今、何をしているかさえ分からなくなるくらいつらく、出発して帰国するまででこの日が一番苦しかったです。でも、最終戦のイラン戦では、頭痛や下痢が治っていて、とても良いコンディションで試合に臨めたので良かったです。

③自分が、ジュニア選手に選ばれて学んだことは、何ごとがあっても手を抜かないということで、自分は練習前のランニングやフットワークの時、いつも、自分のペースでやっていて、自分から声を出してやるということはなかった。だから今まで自分を越えるようなプレーができなかったと思う。でも、ジュニアユース選手に選ばれて、コーチに手を抜くなと、何べんも言われしぶしぶやっていたら、自分の限度がわかり、一段違った自分が分かりはじめました。これからも手を抜かないで〝前進〟して行きたいです。

森本彰宏

①この第1回アジア・ユースの日本代表に選ばれたことを知ったのは、インターハイ予選が終ったまぎわでした。だから僕は、この大会の重要さを把握できませんでした。しばらくしたあと、ハンドボールの顧問の先生からくわしく聞いて、この大会がどんなに重要かを知りました。そして僕はいろいろ考えましたが、日本代表に選ばれたからには、自分の力が世界にどれだけ通用するか、世界のハンドボールはどんなものかなどを勉強したいと思います。そしてこの日本代表として恥じないよう一丸となって戦いにいどみたいと思います。

②成田を出発して飛行機で約20時間乗っていたけど、そんなに体調は、狂いませんでした。そしてダマスカスに着いたその日は、ちょっとした疲れがあって練習もきつかった。食べ物があわず下痢しだしたのは、ダマスカスに着いてから4、5日ぐらいからです。その間、練習の合い間にも、何度もトイレに行こうと思っていましたが、体調が悪いのは自分だけじゃないし、みんながみんなトイレに行っていたら練習にならないので、かなりガマンした時もありました。それから数日たって下痢の対応の仕方みたいなものを覚えて、だいぶ楽になりました。頭痛もあったけれど、薬を飲んでぐっすり寝たら治りました。

　最終戦の時には、体調もすっかり良くなり、かなりちがった気持で臨めました。

③このアジアユース選手権大会で、自分としては、どれだけ世界に通用するか、世界のハンドボールとはどんなものかなどを知るために試合に臨んだわけです。

　まずカタール戦で学んだことは、試合においての粘り強さ、最後まであきらめないガッツ、みんなが一体となって試合をしてたように思います。韓国戦では、ディフェンスを第一に考えた戦術、必ずシュートまでもっていく集中力みたいなものです。

　パレスチナ戦では、みんなちょっと油断したみたいで、ディフェンスにミスがあった。クウェートやシリアみたいに、シュートに対する気迫が自分たちと全然ちがうので、見習わなければならないと思いました。

第27回(女子18回)西日本学生選手権大会

福岡大(男子)、武庫川女大(女子)が制す

男子第27回、女子第18回西日本学生選手権大会は、大阪府立体育館、守口市民体育館に男子32、女子16校が参加して、8月15日から19日までの5日間にわたって開催された。

男子は、昨年と同じく福岡大と大阪体育大の対決となったが、福岡が後半逆転してV2を達成した女子は武庫川女大が圧倒的な強さを見せて勝ち進み、3年ぶり9回目の優勝をものにした。

男子

▼予選リーグ

○Aブロック

福岡大 28―22 名城大
福岡大 27―16 広島大
名城大 22―9 広島大
福岡大 31―20 京教大
名城大 23―19 京教大
広島大 14―14 京教大

〔順位〕①福岡大②名城大③広島大④京都教育大

○Bブロック

京産大 26―17 愛教大
京産大 42―17 徳山大
徳山大 18―17 愛教大
京産大 22―15 大阪大
大阪大 30―24 愛教大
大阪大 25―24 徳山大

〔順位〕①京都産業大②大阪大③徳山大④愛知教育大

○Cブロック

中京大 37―16 山口大
東和大 16―15 中京大
東和大 24―16 山口大
中京大 38―13 大教大
山口大 24―18 大教大
東和大 27―18 大教大

〔順位〕①東和大②中京大③山口大④大阪教育大

○Dブロック

同志社大 25―7 名学大
同志社大 35―7 鹿児島大
名学大 22―20 鹿児島大
同志社大 34―10 神戸大
神戸大 30―20 名学大
神戸大 22―14 鹿児島大

〔順位〕①同志社大②神戸大③名古屋学院大④鹿児島大

○Eブロック

大経大 32―14 松山商大
大経大 29―21 福教大
大経大 33―25 名古屋大
福教大 35―25 松山商大
松山商大 27―25 名古屋大
福教大 28―24 名古屋大

〔順位〕①大阪経済大②福岡教育大③松山商科大④名古屋大

○Fブロック

中部大 25―16 桃山大
中部大 21―13 関大
中部大 30―17 甲南大
関大 12―7 桃山大
桃山大 29―25 甲南大
関大 25―15 甲南大

〔順位〕①中部大②関西大③桃山学院大④甲南大

○Gブロック

愛学大 20―11 久工大
天理大 23―18 愛学大
愛学大 20―19 関外大
久工大 22―18 天理大
関外大 26―16 久工大
天理大 27―17 関外大

〔順位〕①天理大②愛知学院大③関西外語大④久留米工大

○Hブロック

大体大 31―12 九州大
大体大 34―11 高知大
大体大 31―11 近畿大
高知大 23―21 九州大
近畿大 26―26 九州大
近畿大 25―19 高知大

〔順位〕①大阪体大②近畿大③高知大④九州大

▼決勝トーナメント1回戦

福岡大 37（16―16、21―7）23 京産大
同志社大 29（14―7、15―10）17 東和大
中部大 29（13―11、16―15）26 大経大
大体大 24（13―12、11―9）21 天理大

▼7位決定戦

京都大 20（10―8、10―8）16 東和大
天理大 30（18―12、12―13）25 大経大
大経大 21（1―0、3―2、7―10、10―7）19 東和大

▼準決勝

福岡大 24（15―11、9―12）23 同大
大体大 28（17―9、11―7）16 中部大

▼3位決定戦

同大 26（14―14、12―10）24 中部大

▼決勝

福岡大 21（12―6、9―13）19 大体大

女子

▼予選リーグ

○aブロック

武庫川大 22―9 愛教大
武庫川大 52―4 和歌山大
武庫川大 27―12 福教大
愛教大 25―7 和歌山大
愛教大 20―15 福教大
福教大 28―17 和歌山大

〔順位〕①武庫川女大②愛知教育大③福岡教育大④和歌山大

○bブロック

天理大 19―16 中京大
天理大 29―17 成蹊大
天理大 27―16 岡山短大
中京大 22―9 成蹊大
中京大 31―22 岡山短大
岡山短大 17―16 成蹊大

〔順位〕①天理大②中京大③岡山県短大④大阪成蹊女短大

○Cブロック

福岡大 31―18 中京女大
福岡大 30―5 京教大
福岡大 25―16 関外大
中京女大 26―15 京教大
中京女大 24―9 関外大
関外大 18―11 京教大

〔順位〕①福岡大②中京女大③関西外語大④京都教育大

○dブロック

大体大 15―12 大教大
大体大 25―7 広島大
大体大 24―18 九女大
大教大 18―13 広島大
大教大 24―13 九女大
九女大 29―13 広島大

〔順位〕①大阪体大②大阪教育大③九州女大④広島大

▽決勝トーナメント1回戦

武庫川大 27（16―9、11―6）15 天理大

福岡大 20（12−6, 8−8）14 大体大

▼7位決定戦

中京大 21（13−6, 8−8）14 愛教大

中京女大 24（12−9, 12−11）20 大教大

大教大 29（14−9, 15−6）15 愛教大

▼3位決定戦

天理大 20（9−10, 11−6）16 大体大

▼決勝

武庫川大 28（15−7, 13−9）16 福岡大

第10回東日本学生選手権大会

日大（男子）、東女体大（女子）が制す

第10回東日本学生選手権大会は群馬県前橋市に男子31、女子12校が集まって8月16日から20日までの5日間開催された。

男子は、日大が早大を破って2年ぶり4回目の優勝を飾った。注目のインカレ出場権は、函館大が見事予選リーグで中大を下し、関東勢の独占を阻んだ。

女子は、春のリーグ戦で不振だった東女体大が奮起、筑波大、日体大を破って三連覇を飾った。

男子

▼予選リーグ

○Aブロック

日大 25−13 慶大

福井大 35−18 北海学園大

慶大 24−10 福井大

日大 46−10 北海学園大

日大 40−13 福井大

慶大 39−8 北海学園大

〔順位〕①日大②慶大③福井大④北海学園大

○Bブロック

早大 24−19 東海大

福島大 36−12 亜大

早大 43−17 亜大

東海大 26−14 福島大

早大 32−16 福島大

東海大 39−11 亜大

〔順位〕①早大②東海大③福島大④亜細亜大

○Cブロック

筑波大 21−11 明大

北大 不戦勝 横浜商大

明大 18−11 北大

筑波大 不戦勝 横浜商大

筑波大 24−8 北大

明大 不戦勝 横浜商大

〔順位〕①筑波大②明大③北大④横浜商大

○Dブロック

順天大 22−13 東学大

東北福祉大 31−12 信州大

東学大 26−13 信州大

順天大 33−20 東北福祉大

順天大 35−9 信州大

東学大 32−22 東北福祉大

〔順位〕①順天大②東京学芸大③東北福祉大④信州大

○Eブロック

日体大 37−15 青学大

東北学院大 23−22 新潟大

東北学院大 21−8 青学大

日体大 32−10 新潟大

日体大 30−21 東北学院大

青学大 26−17 新潟大

〔順位〕①日体大②東北学院大③青山学院大④新潟大

○Fブロック

函館大 30−9 金沢工大

中大 34−13 山形大

中大 34−10 金沢工大

函館大 23−17 山形大

山形大 24−23 金沢工大

函館大 17−16 中大

〔順位〕①函館大②中大③山形大④金沢工大

○Gブロック

岩手大 23−12 北教大函館

法大 26−18 拓大

法大 32−8 北教大函館

拓大 22−21 岩手大

法大 31−25 岩手大

拓大 34−14 北教大函館

〔順位〕①法大②拓大③岩手大④北教大函館

○Hブロック

国士大 28−7 東経大

金沢大 20−13 仙台大

国士大 39−6 仙台大

金沢大 20−17 東経大

国士大 17−16 金沢大

仙台大 27−19 東経大

〔順位〕①国士舘大②金沢大③仙台大④東京経済大

▼決勝トーナメント1回戦

順天大 30（14−7, 16−6）13 函館大

早大 30（12−13, 18−16）29 法大

筑波大 32（15−10, 17−14）24 日体大

日大 26（12−10, 14−11）21 国士大

▼準決勝

早大 26（13−9, 13−9）18 順天大

日大 28（8−7, 20−15）22 筑波大

▼3位決定戦

筑波大 22（12−9, 10−10）19 順天大

▼決勝

日大 27（16−12, 11−9）21 早大

女子

▼予選リーグ

○aブロック

筑波大 31−12 東学大

東学大 26−9 金沢大

筑波大 37−4 金沢大

〔順位〕①筑波大②東京学芸大③金沢大

○bブロック

日体大 38−9 千明短大

千明短大 21−17 福島大

日体大 41−5 福島大

〔順位〕①日体大②千葉明徳大③福島大

○cブロック

東女体大 28−6 岩手大

岩手大 24−13 富山大

東女体大 42−7 富山大

〔順位〕①東女体大②岩手大③富山大

○dブロック

日女体大 17−10 東海大

東海大 19−15 東北福祉大

日女体大 17−16 東北福祉大

〔順位〕①日女体大②東海大③東北福祉大

▼決勝トーナメント1回戦

日体大 27（14−13, 13−7）20 日女体大

東女体大 20（8−6, 12−13）19 筑波大

▼3位決定戦

日女体大 17（6−6, 11−10）16 筑波大

▼決勝

東女体大 33（16−8, 17−11）19 日体大

各地の記録から…

東北

第40回岩手県民体育大会
（7月9～11日／岩手大学）

〈少年男子〉

▼1回戦
生活学園高 32－14 福岡工高
久慈山形高 20－10 水沢高
一関工高 39－15 西和賀高
福岡高 29－12 一関一高

▼2回戦
盛岡一高 41－8 生活学園高
釜石南高 39－8 久慈高
盛岡三高 29－16 宮古高
盛岡四高 33－17 山形高分校
盛岡商高 26－25 一関一高
大迫高 30－16 花巻農高
盛岡南高 23－12 岩手高
花巻北高 26－6 福岡高

▼3回戦
盛岡一高 42－12 釜石南高
盛岡三高 20－16 盛岡四高
大迫高 21－16 盛岡商高
花巻北高 26－14 盛岡南高

▼準決勝
盛岡一高 27－13 盛岡三高
花巻北高 24－14 大迫高

▼決勝
盛岡一高 19（8－10, 11－8）18 花巻北高

〈少年女子〉

▼1回戦
宮古高 14－5 盛岡四高

▼2回戦
盛岡二高 17－4 宮古高
盛岡南高 14－1 水沢高
一戸高 16－2 盛岡三高
花巻南高 26－3 平館高
黒沢尻南高 15－5 岩手女高
盛岡白百合 27－5 釜石商高
花巻農高 15－10 釜石南高
花巻北高 14－8 向中野学園高

▼3回戦
盛岡二高 17－5 盛岡南高
花巻南高 22－10 一戸高
黒沢尻南高 7－6 盛岡白百合
花巻北高 17－3 花巻農高

▼準決勝
盛岡二高 21－12 花巻南高
花巻北高 14－6 黒沢尻南高

▼決勝
盛岡二高 16（7－5, 9－7）12 花巻北高

〈成年男子1部〉

▼1回戦
盛岡商友会 29－28 岩手大

▼準決勝
花巻ク 40－27 盛岡商友会
白堊ク 24－19 岩手教員ク

▼決勝
花巻ク 31（13－13, 18－12）25 白堊ク

〈成年男子2部〉

▼1回戦
岩手フェザント 50－21 自衛隊
志高ク 38－16 欅ク

▼2回戦
岩手フェザント 39－28 鵬ク
日立水沢 29－28 二戸ク
石桜サブク 23－22 岩手医大
志高ク 34－33 花巻送球会

▼準決勝
岩手フェザント 41－30 日立水沢
志高ク 放棄 石桜サブク

▼決勝
岩手フェザント 31（10－14, 21－12）26 志高ク

〈成年女子〉

▼1回戦
ギャロップレディースクラブ 38－4 野の花ク

▼準決勝
白梅三英会 19－13 ギャロップレディースクラブ
岩手桐花ク 20－17 岩手大

▼決勝
白梅三英会 20（11－8, 9－9）17 岩手桐花ク

関東

東京都高校総体

〈男子〉

▼1回戦
砂川 25－17 東京菅生
東大和 20－10 府中東
富士 24－10 青学
大森東 13－12 世田谷工
修徳 21－10 江東工
昭和一工 20－12 錦城
八王子東 キケン 稲城
足立 22－4 南
井草 21－10 城西
明正 20－18 豊多摩
国分寺 16－13 府中西
五商 33－10 創価
駒込 19－18 小石川工
筑大駒場 9－6 広尾
成城 23－20 雪谷
日野 16－11 富士森
立川 29－10 福生
武村山東 21－13 武蔵村山
早大学院 36－4 佼成
白鷗 16－15 高島
江戸川 24－8 両国
田無 30－3 松ケ谷
館 19－18 神代
2 PTCI
武工大附 26－11 杉並
本所 27－14 石神井
小岩 21－18 深川
三鷹 24－11 桜美林
調布北 28－17 武蔵
新宿 36－8 向丘
駒大高 39－8 蒲田
江北 31－5 昭和一
東大和南 22－6 南多摩
清瀬 41－6 昭和
南葛飾 19－18 鷺宮
学大附 17－5 東
墨田川 26－12 青山
小金井北 42－11 南平
久留米西 32－27 日野台
日大二 40－7 上野
西 22－12 目黒

▼2回戦
砂川 24－13 永山
東大和 27－11 小平南
富士 15－7 大森東
修徳 29－14 葛飾野
昭和一工 18－17 野津田
八王子東 21－11 久留米
足立 16－14 井草
明正 33－9 赤羽商
国分寺 37－8 秋川
中大附 43－11 五商
筑大駒場 18－2 駒込
成城 22－6 荻窪
日野 17－12 立川
武村山東 26－12 片倉
早大学院 34－5 白鷗
江戸川 キケン 篠崎
保谷 17－13 田無
館 25－11 秋留台
本所 27－23 武工大附
小岩 19－12 大泉
科学技術 25－23 三鷹
南野 18－16 調布北
駒大高 16－12 新宿
早実 19－17 江北
東大和南 20－12 明星学園
清瀬 28－9 拝島
学大附 23－5 南葛飾
墨田川 16－7 安田学園
小金井北 43－2 山崎
久留米西 40－13 忠生
日大二 24－7 大崎
西 30－8 城北

▼3回戦
砂川 28－20 東大和
修徳 19－12 富士
昭和一工 23－15 八王子東
明正 17－13 足立
中大附 16－8 国分寺
筑大駒場 19－17 成城
日野 29－21 武村山東
早大学院 19－9 江戸川
保谷 25－16 館
小岩 30－16 本所
南野 27－11 科学技術
早実 22－20 新宿
清瀬 25－20 東大和南
学大附 27－10 墨田川
久留米西 35－18 小金井北
西 21－20 日大二

▼4回戦
砂川 26－16 修徳
昭和一工 13－11 明正
中大附 16－3 筑大駒場
早大学院 20－17 日野
小岩 29－10 保谷
南野 19－12 早実
学大附 15－10 清瀬
久留米西 14－11 西

▼5回戦
日体荏原 25－19 砂川
国立 29－11 昭和一工
中 15－10 中大附
拓大一 21－14 早大学院
明星 36－16 小岩
南野 30－29 東村山
農大一 14－13 学大附
東京 24－19 久留米西

▼6回戦
日体荏原 30－12 国立
拓大一 キケン 府中
明星 40－10 南野
東京 26－13 農大一

▼決勝リーグ
日体荏原 15－11 拓大一
明星 15－12 東京
日体荏原 22－7 東京
明星 15－9 拓大一
拓大一 13－12 東京
明星 26－15 日体荏原

〔順位〕①明星②日体荏原③拓大一④東京

〈女子〉

▼1回戦
文華女子 15－8 小平
東大和南 キケン 野津田

▼2回戦
武蔵 9－3 東京菅生
日野台 20－2 吉祥女
大崎 8－7 雪谷
八雲 15－2 目黒
清瀬 15－11 調布北
武蔵野女 16－1 館
井草 キケン 蒲田
農大一 18－2 上野
富士森 19－7 五商
保谷 13－10 文華女子
葛飾野 12－0 篠崎
小岩 19－3 墨田川
明星学園 16－9 東大和
八王子東 15－10 農業
広尾 10－5 園芸
武村山東 9－3 武蔵野北
南野 12－5 府中東
一商 キケン 白鴎
桐朋 キケン 鶴川
東大和南 14－8 東村山
学大附 16－1 三商
文大杉並 26－3 永福
国分寺 10－1 砂川
福生 11－8 共立第二
青学 キケン 荻窪
日大二 13－6 葛飾商
国立 15－3 府中西
日野 22－3 小金井北
富士 6－5 豊多摩
本所 16－1 西

▼3回戦
日野台 19－2 武蔵
八雲 22－4 大崎
武蔵野女 26－5 清瀬
農大一 9－8 井草
富士森 14－8 保谷
小岩 30－9 葛飾野
明星学園 21－3 八王子東
菊華 19－9 広尾
南野 15－3 武村山東
江戸川 26－5 一商
桐朋 21－7 東大和南
文大杉並 18－7 学大附
福生 14－14 国分寺（2PTCI）
青学 16－1 日大二
日野 12－6 国立
富士 10－4 本所

▼4回戦
八雲 14－11 日野台
武蔵野女 9－7 農大一
富士森 13－10 小岩
明星学園 15－10 菊華
南野 12－11 江戸川
文大杉並 28－18 桐朋
青学 15－12 福生
日野 6－5 富士

▼5回戦
佼成女子 30－5 八雲
武蔵野女 11－10 田無
府中 18－12 富士森
藤村女子 17－15 明星学園
江東商 37－2 南野
石神井 13－8 文大杉並
神代 17－13 青学
日体桜華 10－5 日野

▼6回戦
佼成女子 19－4 武蔵野女
藤村女子 26－14 府中
江東商 21－14 石神井
日体桜華 17－15 神代

▼決勝リーグ
佼成女子 21－15 藤村女子
江東商 21－14 日体桜華
佼成女子 24－8 日体桜華
藤村女子 22－13 江東商
藤村女子 24－10 日体桜華
佼成女子 22－10 江東商

〔順位〕①佼成女子②藤村女子③江東商④日体桜華

第18回関東クラブ選手権

（7月2、3日／草加スポーツ健康都市記念体育館）

〈男子1部〉

▼1回戦
日川ク（山梨） 27－12 富岡ハングク（群馬）
I・Hク（神奈川） 27－19 土浦三高ク（茨城）

柿の美会（栃木） 19—15 小金ク（千葉）
桜門ク（東京） 29—16 46G会（埼玉）

▼準決勝

日川ク 22—10 I・Hク
桜門ク 40—7 柿の実ク

▼決勝

日川ク 33（17—13、16—10）23 桜門ク

▼代表決定戦

富岡ハングク 24—13 土浦三高ク
46G会 26—20 小金ク
I・Hク 27—20 46G会
富岡ハングク 36—14 柿の実会

〈男子2部〉

▼1回戦

学芸球駿会（東京） 16—15 甲府ク（山梨）
笠間ク（茨城） 16—13 北斗七星（埼玉）
旭ク（神奈川） 26—19 前橋ク（群馬）
市川FOG（千葉） 14—9 日立栃木ク（栃木）

▼準決勝

学芸球駿会 19—15 笠間ク
旭ク 21—14 市川FOG

▼決勝

学芸球駿会 24（10—10、14—8）18 旭ク

▼敗者戦

甲府ク 24—17 北斗七星
前橋ク 24—19 日立栃木ク
甲府ク 35—23 前橋ク

〈女子〉

▼予選Aグループ

日川ク（山梨） 20—12 光電ク（群馬）
日川ク 17—14 和洋ク（千葉）
和洋ク 14—7 光電ク
〔順位〕①日川ク②和洋ク③光電ク

▼Bグループ

東京女子（東京） 17—13 御城ク（茨城）
保土ケ谷ク（神奈川） 12—0 オレンジク（栃木）
オレンジク 16—9 御城ク
東京女子 22—10 保土ケ谷ク
御城ク 15—12 保土ケ谷ク
オレンジク 19—18 東京女子
〔順位〕①東京女子②オレンジク③御城ク④保土ケ谷ク

▼3・4位決定戦

オレンジク 20—8 和洋ク

▼決勝

日川ク 20（9—9、7—7、1—1、3—2）19 東京女子

関東中学埼玉県2次予選会

（7月9日、10日・浦和学院高校体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

蓮田 18—11 吉川南
朝霞五 26—22 中野
吉川南 19—18 朝霞五
蓮田 17—13 中野
中野 18—17 吉川南
朝霞五 19—15 蓮田
〔順位〕①朝霞五②蓮田③中野④吉川南

〈女子〉

▼リーグ戦

榛松 14—6 中野
吉川中央 27—12 八潮
中野 13—11 吉川中央
榛松 28—6 八潮
中野 17—7 八潮
榛松 17—7 吉川中央
〔順位〕①榛松②中野③吉川中央④八潮

中国

第16回中国中学校選手権

（8月8、9日／境港市民体育館）

〈男子〉

▼予選リーグAブロック

深浦中（山口） 24—9 境一中（鳥取）
深浦中 22—11 操南中（岡山）
操南中 10—10 境一中
〔順位〕①深浦中②操南中③境一中

▼予選リーグBブロック

境二中（鳥取） 15—13 片山中（広島）
境二中 14—13 江東中（島根）
片山中 19—12 江東中
〔順位〕①境二中②片山中③江東中

▼決勝トーナメント1回戦

深浦中 21（9—4、12—9）13 片山中
操南中 21（9—5、12—5）10 境港一中

▼決勝

深浦中 18（11—6、7—5）11 操南中

〈女子〉

▼予選リーグAブロック

玖珂中（山口） 26—3 境一中（鳥取）
玖珂中 15—7 富山中（岡山）
富山中 32—1 境一中
〔順位〕①玖珂中②富山中③境一中

▼予選リーグBブロック

松賀中（広島） 20—19 浜田一中（島根）
松賀中 19—6 境三中（鳥取）
浜田一中 25—15 境三中
〔順位〕①松賀中②浜田一中③境三中

▼決勝トーナメント1回戦

玖珂中 25（15—0、10—4）4 浜田一中
富山中 34（21—4、13—8）12 松賀中

▼決勝

富山中 13（9—5、4—6）11 玖珂中

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二七九号
昭和四十年六月
第三種郵便物認可
昭和六十三年九月二十五日 印刷
昭和六十三年十月一日 発行
東京都渋 南一ー一ー一
電話 代表 二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五十円
（年間購読料三千三百円）